

拾遺 都名所圖會

平安城

内務省圖書

第 號

部書 類

函

冊 共 五

和書門

六五九

類 號 函 架 冊

内閣文庫

和書

今五九

七二函 一四架

冊 號 類

内閣文庫	
番號	和 8659
冊數	11 (7)
函號	172 176



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

竹原春朝齋畫

拾遺都名所圖會



名所圖會拾遺者
 山城之都邑山
 川之美祿祠佛樓
 之勝分毫末於短
 簡籠千里於寸陰



所謂能居然而辨
八方者乎哉夫徒
有勝情實無濟勝
之具者唯當卧以
遊之

天明丁未九月

鷲尾大納言藤原隆建卿

櫻寧主人

八冊下巻
御覽
...

凡例

- 一此書と前編小漏とを拾ひあつた今風の風系分とがはと圖小
換寫し其由縁と記し竹の松ととも佛院の塔頭末流の子院等ハ
隙限あつたれと咸載じ年舊く名の高低と撰く録す
- 一前編の圖中に遠景の畫あり今これに微細小圖とて其封境ハ
精くあらはに大悲の牛尾の款あり
- 一圖畫後編小の門々文讀されハ前編に出たり文讀前編小在る
圖畫あるハ後編小より兩編應照とて其全と知れ一丈慶了
至つては前編に載せたりども再考し漏るを補ふ北野社
東福寺の款あり
- 一古人の居所ハ舊記歌書などより其地を考ると載じ主人乃
口稱も亦奇ありハ除くはあつたに類されハ去るに
- 一引書の長文より其要を摘く畧書と

一洛中神社佛閣の圖（まがら）に（まがら）くく（まがら）底編に出たり拾遺ハ街衢小路（まがら）
 はくあり小祠子院（まがら）を画（まがら）とる小風系（まがら）か一因茲大社の系（まがら）礼（まがら）成
 多く圖（まがら）とて又ハ四時游觀の形勝と寫（まがら）と
 一圖中の向々小大画あり強名所古跡小（まがら）つ々（まがら）其多の地勢（まがら）ゆるく
 風流の系（まがら）氣と畫（まがら）とるとの之旅行の人道に迷（まがら）て里人小聲（まがら）天（まがら）上（まがら）ケ
 みる林又ハ野原（まがら）往來とるに暴風小適（まがら）く多（まがら）か（まがら）く（まがら）け（まがら）林（まがら）
 ふとの類あり其餘（まがら）と衣編の凡例（まがら）か（まがら）く（まがら）西編（まがら）公曉（まがら）一
 見たる（まがら）處（まがら）とる（まがら）也

拾遺都名所圖會卷之一目錄

平安城

- | | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|------------------------------|
| 公卿拜賀泰内圖 <small>（まがら）</small> 同朝賀圖 | 京城之釋 | 平安興基 | 四神之記 |
| 王城之解 | 御靈社例圖 | 九重之盪觴 | 洛陽之事 |
| 大内裏封境 | 上善寺 | 鶯宿梅 | 曙櫻 <small>（まがら）</small> 聖者神社 |
| 五所八幡 | 光明寺 | 大寧寺 | 西園寺 |
| 長福寺 | 京極八幡 | 阿弥陀寺 | 十念寺 |
| 佛陀寺 | 寶慈院 | 飛行院 | 金龍水 |
| 昆沙門堂 | 福大明神 | 道正庵 <small>（まがら）</small> 稻荷社 解毒園 | 大峯殿 |
| 今宮御旅圖 | 平隆寺 <small>（まがら）</small> 千代の井 | 興聖寺 <small>（まがら）</small> 錦囊園 | 超勝寺 |
| 稱念寺 | 惠光寺 | 三復荒神 | 獄門寺 |
| 智惠光院 | 不動堂 | 大道社 | 無量寺 |
| 西方寺 | | 紅梅殿 <small>（まがら）</small> 梅洛碑 | 北野菜種御供 |

北野 北野地社 繪馬堂 向志支社 朝日寺 御文庫 經所 舟家銘 手向山舟楓 船宮 連歌堂 忌明塔 文子社

茶師堂 蜘蛛塚 西玄寺 寶樹寺 和光院 清和院

大將軍社 長寶寺 東光寺 法華寺

沼圓寺 普門寺 映山紅所 西光院 人磨像 立本寺

内野 國生寺 祥光寺 福勝寺

慈眼寺 觀音寺 華陶院 淨篤院

西運寺 出世稻荷 梅雨井 松林寺

稻荷荒神 順興寺 大學寮舊趾 土橋稻荷

滋野井 二條殿家 和泉井 少將井 同天王社

伊勢御家 針見祇園泰 曇華院 不動堂延命院

業平御家 悪源太旧蹟 祇園會祭禮圖 成範卿家

飛鳥井 三條石定方卿家 法泉寺 願樂寺 禪六儀

定家卿家 白山社 布袋茶師 紫式部家

常盤井 高辻殿大満宮 遣迎院 本禪寺

安禪寺 行事官神明宮 揮井大満宮 見性寺

三福寺 南名寺 妙傳寺 大恩寺

教安寺 寂光寺 信於寺 要法寺

空堂踊念佛 安養寺 了蓮寺 燈燼堂

聖光寺 法然寺 空也寺 系預寺

德正寺 後成卿祠 南岩倉 鐵瀧塚

七々掬業流 大江公資家 御射山諏訪祠 任心院 昆内山堂

鼠突不動 大師堂 名構 阿彌梨諸社巡 和歌所舊趾

元々女祠 六齋念佛 山王社 平將門祠

肉桂水 龜龍院 道祖神 火尊社

都町涌 飛梅誕生水 大泉寺 對人

人麿社
 相違祠
 正運寺
 休務寺
 月輪寺
 本圖寺方丈
 堀川御所旧趾
 織部京坐舖
 阿佛塚
 源頼光館
 洛外惣土堤盤觴
 一道院
 児茶師
 隼祠
 聖徳寺
 歸命院
 源頼義家
 大橋立
 稲荷辻挑灯
 猪隈祠
 飯子祠
 又旅社
 水葱宮
 壬生寺
 中堂寺
 淨影堂
 下間家
 本宮塚
 東寺神供
 高瀬川
 本妙寺
 三寶寺
 壬生菜畑
 一夜大神
 長圓寺
 三善清行家
 桂宮旧趾
 施茶院社
 國姓爺寓居
 羅城門舊蹟

周國已禾黍漢
 京芳州生東方
 千古古只可
 平安城



九重天上來儀鳳
五色雲中拜袞龍



公卿拜賀
表内侍

續十載
氏アとく
國花ころ
あり
伊代
うんと
表
ちとせか
流
初々
一条因



元日小樽の
茶屋に
内裏へ
入ると
見く
うらや



初室小
茶屋に
寛
其の
あり



平安城の興基ハ人皇五十代乃帝桓武天皇延暦十二年正月甲午日
詔有りて大納言藤原黑磨ヲ大辨古佐美等ハ山背國の勝地ヲ視
せし勅小徳ひあつこの群縣城めりて上奏し曰當邦
宇多邑ハ地勢郁郁して四神相應し有德無疆ハ皇州之速に
新都ヲ闢テ帝城ヲ造しめたり美代不易の都なりとをヤケル
因茲同年二月辛亥の日參議治部卿壹志濃王ト加茂左神小遣
りて遷都れりて告たまひ曰き二月己卯の日 天皇葛野小行幸
ありて新京乃地理ヲ 觀覽しつひ五位己上及ひ諸司主典と
役吏と進免新都の宮城ヲ造營し九重とめりた四方ハ洛域ハ
隍城りて廢を興し絶るるハ繼鴻業城同を
十一月詔ありては國ハ山河襟帶し自後ハ城とさるゆハ山背の
文字ハ山城と改免移入即都ト平安京と號たすい
の次第ハ上古より大和國と首率ハ一城承和二年十月 勅し改め

山城國六十餘州の冠首ハ移入續日本後紀 柞平安の都と興基とより
今ハ 神代小至りて一千有載遷都ありハ中華小といま其例あり
寔ハ天津日嗣の位ありてより神嘗澤川のほとり大穴位ハ
の松乃葉のらりて後ハ億兆の歳を彌らんとて知らるる
四神相應の地といふ事ハひびく聖德太子蜂屋今のおの 小のり移して此
都を見ちりて四神相應の地と百七十餘年ありて都と遷とてり
はしき所ありと宣ひたるをヤケル神皇正統記 四神といハ東と蒼龍
西と白虎南と朱雀北と玄武とまづけて四方ハくのめり鬼神ハ象
ありと云ハハ飛あり奉天の二十八宿と割りて七星ハ四方ハ配して
其星の象より起る名あり宿の在所ハ時より東ハ東又西ハ西と運るそ
まハ抱らば角亢氐房心尾箕の七の宿ハ並座ハ龍のハ足と東ハ方と
ハ斗牛女虛危室壁の七の宿ハ並座ハ虎のハ足と西ハ方とハ奎婁胃昂
畢觜參井七の宿ハ並座ハ短尾のハ足と南ハ方とハ井鬼柳星張翼

軫七の宿の並びを、此れ龜と修らふべしと云ふ方と次
東の本に青龍、西の金に朱雀、南の赤に白虎、北の黒に玄武
 あり、此れ朱一は等の星に象四方の色を配えて青龍朱雀白虎玄武と
 云ふは、東に龍、西に虎、南に朱雀、北に玄武と云ふは、四方の宿あり、各一の形と云ふ
東に龍、西に虎、南に朱雀、北に玄武
 東方龍の如し西方虎の如し皆南と首めて北と尾と南方を北と西方
 龜の如し皆西と首めて東と尾と又禮記にも四神の旗に青龍朱雀白虎玄武
 圓圍門あり是内裏の準と云ふ淮南子にも圓圍は奉天の紫微宮乃
 門と云ふまれば借て天子の門は稱と云ふ又楚詞にも天門の圓圍は禁門
 乃稱と云ふと云ふ所の謂ふより四神相應の地といふよりあり
 王城とい王の往りて天下歸性の貌之城を盛之國都を盛受る乃貌なり
 又都城の九重は差別あり京城皇城宮城といふ京城といは總て都といふ則
 平安城の皇城といは皇居の總構の内なり諸司百寮悉くく具内なる
 所謂大内裏といふ是之宮城を皇居と制度
 京師とい詩經公劉篇陟南岡乃觀于京京師之野云是也鄭箋小都邑也營

之と云ふ處といは朱註小京の高き丘之師は衆之高き小京衆く居るとあり
 蔡邕獨斷小云天子都と云所と京師と云ふく京の水たんとて地下乃
 多きとの水過るとあり地との衆きとの人小過るとあり京を大なり
 師を衆之入衆乃居ると云所と云て天子の都なるゆゑ爾雅小天子高き
 小居して遠きを視乃意師は衆ありて人民衆くつゝ又衆の謂と
 九重の都と稱するは周禮匠人職小云より匠人營國方九里旁三門國中
 九經九緯注云方九里の周の代れ天子の都の度は四方小三門の門を合て
 十二門と十二門の通して十二より次國中より皇城ありて宮城はまふありて
 經緯と云道條ありて南北と緯と東西と緯と一門毎に二條乃道ありて
 東西ありて九條あり是と九重といは都といは華の訓は花也と云ふく
月集 昔より都を名するは月のやわたらう月の中なりとあり
玉葉 其の上をたれと云の屋と云ふを屋と云ふは花と云ふは田と云ふは
大木 其のくやむく庭のむくまれば袖と云ふは世乃初と云ふは成



御霊神事
八月十八日

八月十八日
のまつり

八月十八日
のまつり

八月十八日
のまつり



五所八幡
 上善寺
 間臥禪庵
 曙楼

光明寺

京極通條遠格の面あり... 本尊抱止如來

阿弥陀寺

同街光明寺の面あり... 本尊阿弥陀佛

織田信長

同信忠兩公景... 同兩公墓

十念寺

同街今出川の面あり... 永觀堂

本尊阿弥陀佛

弘法大師の坐像... 本尊阿弥陀佛

佛鬼軍圖

休高の巻... 佛鬼軍圖

佛陀寺

同街今出川の面あり... 佛陀寺

本尊阿弥陀佛

弘法大師の坐像... 本尊阿弥陀佛

京極八幡宮

上河原門前西... 京極八幡宮

高陽親王

親王と申... 高陽親王

佛陀寺

同街今出川の面あり... 佛陀寺

本尊阿弥陀佛

弘法大師の坐像... 本尊阿弥陀佛

京極八幡宮

上河原門前西... 京極八幡宮

高陽親王

親王と申... 高陽親王

佛陀寺

同街今出川の面あり... 佛陀寺

本尊阿弥陀佛

弘法大師の坐像... 本尊阿弥陀佛

京極八幡宮

上河原門前西... 京極八幡宮

高陽親王

親王と申... 高陽親王

佛陀寺

同街今出川の面あり... 佛陀寺

本尊阿弥陀佛

弘法大師の坐像... 本尊阿弥陀佛

京極八幡宮

上河原門前西... 京極八幡宮

高陽親王

親王と申... 高陽親王

佛陀寺

同街今出川の面あり... 佛陀寺

本尊阿弥陀佛

弘法大師の坐像... 本尊阿弥陀佛

京極八幡宮

上河原門前西... 京極八幡宮

高陽親王

親王と申... 高陽親王

佛陀寺

同街今出川の面あり... 佛陀寺

本尊阿弥陀佛

弘法大師の坐像... 本尊阿弥陀佛

京極八幡宮

上河原門前西... 京極八幡宮

金龍水

室町頭柳原の苗町西側人家兼亭の傍あり涼洲の名水の肉みりて水極

寺大心和尚の銘文ありて面書しとく井上小堀

原此竹の足利三代將軍義滿公の館ありて花所所といひ又窪町殿といふと殿舎

今近隣の町と惣門町築山町とあづく四方の巡りあり後右平記ありて

東西四ツ足門のり應仁記不載あり永徳元年二月後園院は所不行幸あり

應永二年四月後園院行幸あり同年四月義滿公は金園といふを

此所の子息義持公不識あり

南方紀傳云永永四年の三月將軍花亭ありて海あり室町殿といふに其鏡ふ

花御所行幸記云永永九年十月一日所路へ東洞院と南ふり中門と西は室町

を少敷者小修儀東ふ今出川と少敷北小修儀西ふ行幸て室町殿の四ツ足門ふ

管見記云永永十一年一月廿一日室町泉殿御移徙也

比沙門堂 鳥丸小頭柳の過子あり相國寺塔續の

本尊毘沙門天 聖徳太子の依寺説云足利義滿公二百六十尺の塔を建ち應仁

明月記云貞永二年二月廿一日丙午毘沙門堂の花半開くと云

後愚昧記云應永二年二月十九日毘沙門堂の花半開くと云

天正年中小若て曰是よりむのたふ毘沙門の傍あり年歴久遠ありて

大さハ相國さありんかの寺ふ至て衆僧ふ老を語り一人の比丘事の沢ふ山門の

中重へ登りてふとくは是尊像あり常人の堂らる所ありと云ふ

の人の悲を語りて一ふ乃傍に小禪せしむは人の奇異なり即かの賢人の心

來て是中の空容はまはれし感懐せよと云ふを因縁を後後ありて又安んず

寶慈院 室町頭中林下四のり禪宗日野家の本尊阿彌陀佛 五日の坐像一丈計

用基ハ無外法尼其魁ハ城陸奥守の女うて名張千代野姫といふ

故小六張千代我寺といふ所

道正菴稻荷社の用祖道元ハ高小隨身して中華小俗といふ尚所

隆盛ハ中つて傲ふ發せ既小息孫人と次時ふ一人ハ老翁忽

現を冥系張授ふ疾愈ふ瘡ぬかの翁隆盛ハ云ハ踏砂紙辭せし

從人の志ふ今用の所の系方と授く幸朝小帰つて子孫ハ修人諸人乃

病苦救ふハ 此ハ是日奉ふの筆指若明神ありと説終て是ハ道元

不尚具ハ源州望小禪師張授ふ人隆盛髪と剃て道正と名常ふ

乃筆指若社ハ紅緒と神威ありてハ解毒園乃靈がと清く今ふ至て三

十餘代家名相續ハ曹洞宗一派の奇官所ハ 解毒園と諸國ハ弘く是

皆指荷大明神の冥助ふと云ふ

大峯殿

西洞院一條の小大峯辻子西側ハ大石塔あり古ハは所寺院ありて役行者の

今町中の持物とあり日記終末に

系小外傳といふる友好く役とする下衆法師をたり隣ま有るふ男は法師

の家小行て此奉りんと切ふ云々ハを法師が云はる頼く人ハ修人小非を

云く迷ふも教らるるを男懇小習人と云ふハ七日堅固精進して法師

今首物語曰

今町中の持物とあり日記終末に

系小外傳といふる友好く役とする下衆法師をたり隣ま有るふ男は法師

の家小行て此奉りんと切ふ云々ハを法師が云はる頼く人ハ修人小非を

云く迷ふも教らるるを男懇小習人と云ふハ七日堅固精進して法師

今首物語曰

今町中の持物とあり日記終末に

系小外傳といふる友好く役とする下衆法師をたり隣ま有るふ男は法師

の家小行て此奉りんと切ふ云々ハを法師が云はる頼く人ハ修人小非を

云く迷ふも教らるるを男懇小習人と云ふハ七日堅固精進して法師

今首物語曰

今町中の持物とあり日記終末に

系小外傳といふる友好く役とする下衆法師をたり隣ま有るふ男は法師

の家小行て此奉りんと切ふ云々ハを法師が云はる頼く人ハ修人小非を

云く迷ふも教らるるを男懇小習人と云ふハ七日堅固精進して法師

今首物語曰

今町中の持物とあり日記終末に

系小外傳といふる友好く役とする下衆法師をたり隣ま有るふ男は法師

の家小行て此奉りんと切ふ云々ハを法師が云はる頼く人ハ修人小非を

云く迷ふも教らるるを男懇小習人と云ふハ七日堅固精進して法師

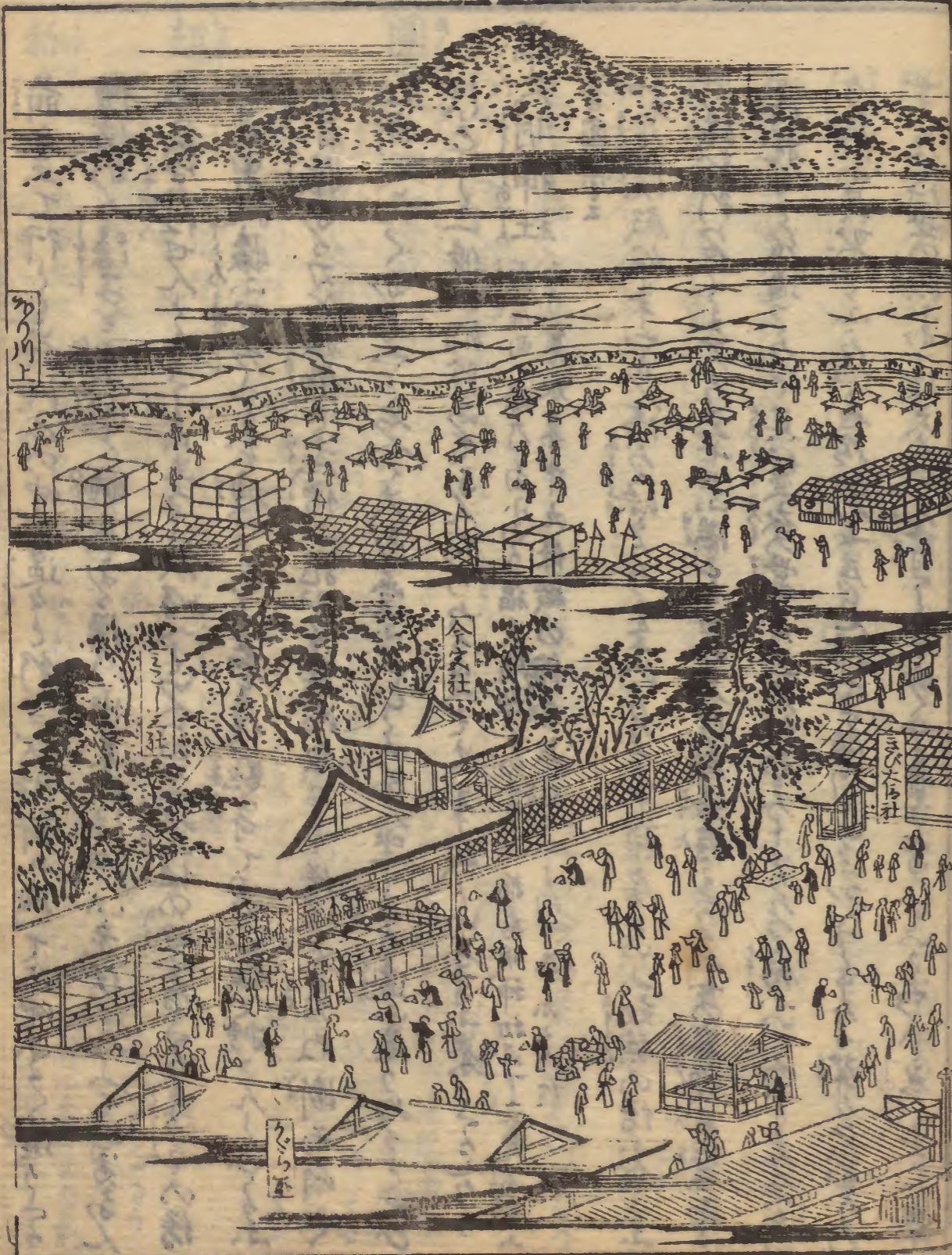
今首物語曰

今町中の持物とあり日記終末に

系小外傳といふる友好く役とする下衆法師をたり隣ま有るふ男は法師

の家小行て此奉りんと切ふ云々ハを法師が云はる頼く人ハ修人小非を

云く迷ふも教らるるを男懇小習人と云ふハ七日堅固精進して法師



カノ川上

今宮社

くら

今宮神旅



前小立て行くと之は己の内計に成て中よく造りたる
僧坊あり隣子と実用之暇長ある僧乃出来ぬ法師は老僧ふ向ては男あり
おみ宮仕せんともさへあると人へいふ男の柴垣の辺に居たり房の傍
曰具男れ懐ふ刀をさうと捜せといふ若き傍馳寄て男の懐を捜さんとさふ
密に懐ある刀を抜儲て老僧は危むる具成愈々老僧より失ぬ漸ありて
け所へいつくあるとと人を大なる堂にひとり坐しう遣ふ有りぬと云
はまると一線西の院であんありける是を大推房といふ寺小末りたる
福大明神社 葭屋町一條乃有ふあり福大明神といふ計指高明神初下之貴高愈ふ
あり寛永年中九條殿の館舎を建てるふりてさふふに

著聞集云

知足院殿何事やら之所を深りたる事有りたる大推房といふ効験の傍ふ女ふ
乃法派行をさるとりて七日満ちる日知足院殿益度とる女容顔も驚ある
が津松をく坂通るると其髪衣の裳より三尺計ありたる物ありつくと云ふ
多倍ふ其髪よりふたつ七粒はぬ女房は歸てさぬけふふのり中なる聲ありいひ乃
中凡ては世の類あり後天人の天降るをのり中を言をいひてさくと思ふありて

強く止させおひたる女房何れに教らる通ぬと云ふる程ふその髪をいひふあり
行版いへ歩すく歩すと云ふ所をわねの所ふふそのを清浄くたしを瓶の尾之り
不思議と思ふ大推房ありて其様版をいひいふと清浄くつゆいふ年來
巖をの志保し覚ひいつとも是程新しあるまはしむる清浄なる日午の終ふ
必おひへくゆり次の日午は舞ふ清悦の事公家より中さたりたる事候のい
尾は法物入て深くを藏めたり其後花園のゆく清浄冷名東の院ふ清つり
わつし時と祠とありて獲りてさふり福右神とて授りやんをり

圓通山興聖寺

小川の北天神辻子あり禪宗濟家洞基の虚應和尚後陽廣院

本尊釋迦佛

佛殿小達摩像 中華佛覺盤の允坐像二尺額威妙相ありて世

超勝寺

安居院二階町あり津土宗知恩院小属に

本尊阿弥陀佛

役行者の允立像二尺二寸中將姫雲雀の居室の本有り

称念寺

西陣松町あり津土宗源帥流聖なる属に本尊阿弥陀佛 真念の允立像二尺二寸

開基の稱念上人 四十八願巡の才十番



本隆寺
千代乃井

三復荒神

元善通寺通大宮の西のり捧る荒神の祭儀三尺寸火災除除乃靈驗あり

獄門寺

西陣七の社の西のり捧る一名西福寺といひうた酒裏の沖時は寺西洞院

秀吉公朝鮮征伐の時この地の敵兵を斬断して其尸を大佛殿のおふつこめ
耳塚と号し四脚の石に當りて乃傍に存上人の供養乃導師に
作付し其時秀吉公より資料を賜ふり寺記ふりたり後世
荒廢してあり今も寺を存する葉所佛ハ聖徳太子の沖紀
之條四尺計原大木園高市郡あり一條院沖宇寛弘二年八月はるふ

智恵光院

智恵光院通一條のふあり降宗本尊二尊佛 弥陀觀音勢至と安ん

惠光寺

降福寺通一條のふあり法華宗本國寺の屬に同基の権大都日安上人本願

所之は人の久我睦道公の息女とて俗名坂伴佐女とつくはる乃近き小坂を修んで
信け今の保佐町是之を名する亡夫の法名に保佐女坂法尼とをりく建徳のちを縁に
おた人のもむとせし法のなまこれの妙は世をばはるれ 妙法尼

天道社

千本通無屋町あり糸神日月の二神

無量寺

日街の北柏町あり降宗本尊阿弥陀佛 慈覺大師の化之條四尺計

西方寺

小村直盛止子あり天台宗法光坂本本尊阿弥陀佛 慈覺大師の化之條之今

不動堂

七本和通今出川の南あり本尊の智證大師の化坐條三尺餘

紅梅殿

小村宮東の門一町餘東あり勸請の由致赤縁ふり梅銘の碑あり

菅公手植梅銘
龜矣斯梅鞞平含章必弗瓊姿黜儵耿光祥風翕習傳馨外方候翰候
根孔蔚孔彰允歌金石多歴星霜德比聖檜愛均其棠鴻名有赫億世
無疆 平安 大江資衡

天満宮菜種御供

西京勸負町小村供所之 毎年二月廿二日 鳥羽院沖宇天仁

二年より始めて北野宮の沖忌と執りせり其日の夜ふりて沖供田返願なる家
より大小の神供のどと調沖供所小饗を本殿小捧けり宮司の面々相心し垂之
く神前の階下小至りて沖供と宮司の二老二老神おふりて一老一老の供お捧け
二老(右持)の供物と捧てまぐく神お供ふりて沖供の飯と堆盛て其上小菜菜花
と挿と故小菜種御供と標と奉ふりて菜花のいと咲さる時則梅花と挿し
又毎歲六月九日都下の人々本村詣り南の門外出でて又本社詣り所
の如くとも奉九夜をまじと九夜祭といひ日ひむり小村初て遷坐し終日
とて七月六日因陣小藏あり神寶紙幣殿ふりてまじ紙幣干に此日と諸人
群祭し其間小宮司の衆僧内外の陣ハ煤塵と掃ひ同七日曉天小

松梅院之人因陣入て清水水と献し神寶の中松風の御視の人小教
葉紙並て貢る足七夕のわがと神咏し人爲とを又清祭禮ひり八月五日
行きて其旅の只麗巖多しといふとくく神樂紙勸解由今下三葉の西の清旅
所小迂しなり且道條二十餘町の同地上小蜀紅錦紙布供奉に孝ハ羅綾乃社
を飄し音樂の聲雲井小むた々う當社の日記ふとく初雪は只都下は駿人
當社小詣し和歌紙詩紙咏しと敲といふへりの風俗と菅原氏乃
五條殿高辻殿東坊城殿之家の息男十六歳小なるの時神前小詣し幣殿ふかり
文章一篇紙撰し自書して奉る所を獻策と云ふ是よりしと後秀と賞
此時右近馬場より南の祭地小傍る南の門小入ると坊城途といふ菅神
始て七條文子宅小現トありより文子さまの末裔と代々仁をまと稱し神後と
勤し其婦も亦世文子と名はる女巫ら松梅院妙極院使勝院の之家ハ社司
りて其餘目代宮司の枚軍文々神後と勤し寔は北の大屋りて聖廟影向ハ
千載の星霜近しといふと神威日々小新りて詣人常小回断り

北野社

北野社 小野地等の神なりて天滿宮本殿の後東より第一の社之神後拾遺云仁明帝
承和三年二月遣唐使の爲ふ初て天神地祇と多しと云人土人小野教と云ん

白太史社

白太史社 本殿のお東儀あり或云聖廟荒蕪紙多しといふ

老松社

老松社 本殿乃後より所ハ菅神所愛松老松乃靈之
社頭雪

本はりの名と老松乃社と云雪之乃紙と云ん 雅世

朝日寺

朝日寺 本殿の西あり古の遺跡也 此沙門堂 朝日寺の南隣る本尊立像四尺并
本尊觀世音立像二尺餘 脇士吉祥天女善臈士童子

煙の宮

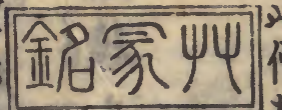
煙の宮 朝日寺の南末社七座の内あり燈籠心燈僧都連歌ふ志はく小野連歌
堂小ありありあり附勺秀逸なり本尊神感應函しとて本尊
於葉の大事之水の巻卧龍乃卷の二書紙授けりといふ

身ハいつ乃煙の女名りしと云ん 心致僧都

藤の目之は連弁よりありて小野の宮乃末社ハ煙の宮と云り灯房は此年やと云

此僧都ハ殿山住心院の位職なり

此碑画馬殿の西あり銘ハ堀禎助 書ハ鳥石



手向山楓樹

手向山楓樹 朝家碑の南あり南都手向山の丹楓と云ふは楓と銘する標石あり

鳥蹟己降入文事興衣帛木葉亦與斯文惟願將聖克念入神書

草蘊崇功進成山皆北雜助宜貽子孫分而爲石石可與言龍地

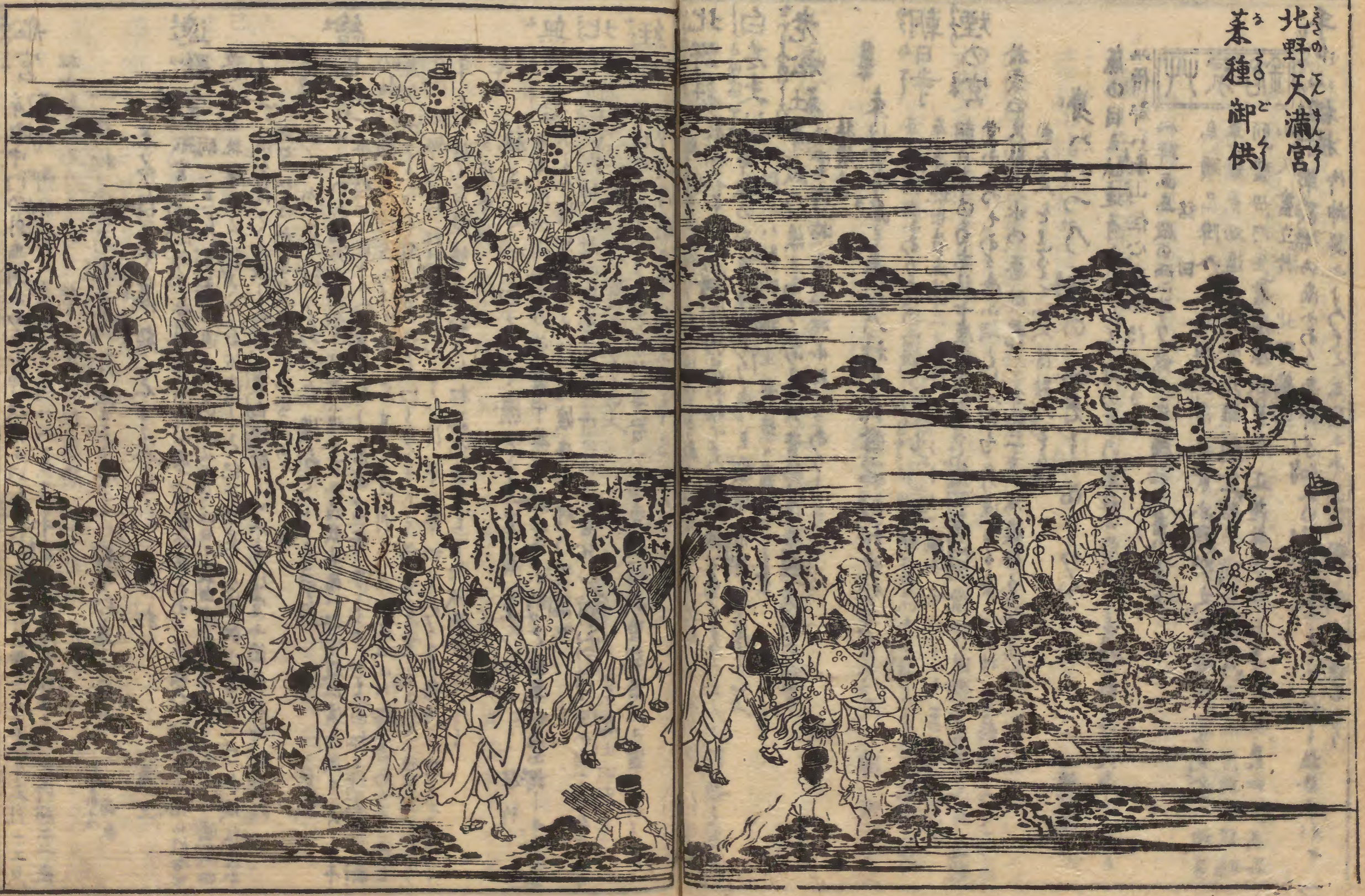
前塾母乃生靈膝康桓篆屈正起銘寬保三年癸亥夏四月鳥石

山人書立於北野廟側

北野廟側

北野廟側

北野天満宮
茶種御供



船宮 本殿中門の外西側あり小神次あり曰船宮一夜の松の靈之天曆九年三月十二日
菅神 御詠室小吾樓人所ハ一夜了千本の松をどろどろとハ之許抄ハ一夜
松小智小わりと云々 新千載集寄松述懐
一夜松子世乃末葉の老木も七本もろりね奉ま位を 前泰深 為長

松小智小わりと云々 新千載集寄松述懐
一夜松子世乃末葉の老木も七本もろりね奉ま位を 前泰深 為長

松小智小わりと云々 新千載集寄松述懐
一夜松子世乃末葉の老木も七本もろりね奉ま位を 前泰深 為長

連歌堂 船宮の後あり毎月廿八日所不於ては樂の連をり系諸乃人連坐小抱らばと
詞ことな旅著の連をとり又正月四日裏白連有あり九て連有乃旅後四
投之中古執事乃人謬と斤白旅遺しと記さる是より流例とありて厚紙紙旅後五
く又一紙を添く五枚と故小裏白連歌とて今ハ堂不唐天神旅安に
宗武

連歌堂 船宮の後あり毎月廿八日所不於ては樂の連をり系諸乃人連坐小抱らばと
詞ことな旅著の連をとり又正月四日裏白連有あり九て連有乃旅後四
投之中古執事乃人謬と斤白旅遺しと記さる是より流例とありて厚紙紙旅後五
く又一紙を添く五枚と故小裏白連歌とて今ハ堂不唐天神旅安に
宗武

連歌堂 船宮の後あり毎月廿八日所不於ては樂の連をり系諸乃人連坐小抱らばと
詞ことな旅著の連をとり又正月四日裏白連有あり九て連有乃旅後四
投之中古執事乃人謬と斤白旅遺しと記さる是より流例とありて厚紙紙旅後五
く又一紙を添く五枚と故小裏白連歌とて今ハ堂不唐天神旅安に
宗武

繪馬堂 中門の外西の方ありは所掲書畫詩歌連俳ハ都下及遠國々ありて
每ふねくはる人小聚て歎一名画名筆多し中ハ京都 瀬尾の
の紙れ圖ハ大終るりて世小名高一二月毎の廿八日ハ神祭ありて終
中門廻廊ありハ松枝梅枝むむとけけと奉納し行半他境小誇りて夥し
年々小指石燈爐乃殿く松梅の本とらとん旅奉りて多し

繪馬堂 中門の外西の方ありは所掲書畫詩歌連俳ハ都下及遠國々ありて
每ふねくはる人小聚て歎一名画名筆多し中ハ京都 瀬尾の
の紙れ圖ハ大終るりて世小名高一二月毎の廿八日ハ神祭ありて終
中門廻廊ありハ松枝梅枝むむとけけと奉納し行半他境小誇りて夥し
年々小指石燈爐乃殿く松梅の本とらとん旅奉りて多し

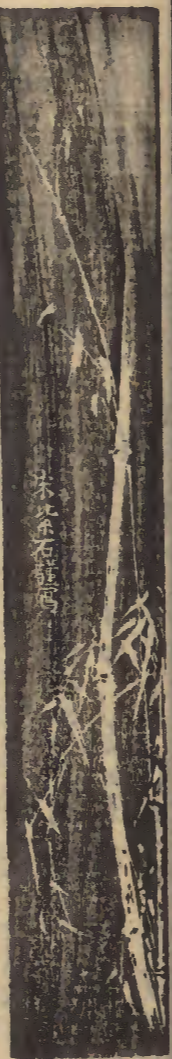
繪馬堂 中門の外西の方ありは所掲書畫詩歌連俳ハ都下及遠國々ありて
每ふねくはる人小聚て歎一名画名筆多し中ハ京都 瀬尾の
の紙れ圖ハ大終るりて世小名高一二月毎の廿八日ハ神祭ありて終
中門廻廊ありハ松枝梅枝むむとけけと奉納し行半他境小誇りて夥し
年々小指石燈爐乃殿く松梅の本とらとん旅奉りて多し

無隼塔 画馬所の南あり菅靈中華乃經山寺小到く無隼和尚小謂くハ由極
ふより塔板さふ立は足履唐天神乃盤纏也
北野御文庫 神樂所の小あり菅神作他の書卷多寶塔 如來脇士四天王
經所 神樂所の小あり安坐と所普賢不動愛際地藏聖觀音共心靈るりて

無隼塔 画馬所の南あり菅靈中華乃經山寺小到く無隼和尚小謂くハ由極
ふより塔板さふ立は足履唐天神乃盤纏也
北野御文庫 神樂所の小あり菅神作他の書卷多寶塔 如來脇士四天王
經所 神樂所の小あり安坐と所普賢不動愛際地藏聖觀音共心靈るりて

無隼塔 画馬所の南あり菅靈中華乃經山寺小到く無隼和尚小謂くハ由極
ふより塔板さふ立は足履唐天神乃盤纏也
北野御文庫 神樂所の小あり菅神作他の書卷多寶塔 如來脇士四天王
經所 神樂所の小あり安坐と所普賢不動愛際地藏聖觀音共心靈るりて

無隼塔 画馬所の南あり菅靈中華乃經山寺小到く無隼和尚小謂くハ由極
ふより塔板さふ立は足履唐天神乃盤纏也
北野御文庫 神樂所の小あり菅神作他の書卷多寶塔 如來脇士四天王
經所 神樂所の小あり安坐と所普賢不動愛際地藏聖觀音共心靈るりて



竹画碑 中門の南あり
畫 宋紫石
銘文筆跡 土岐中書

此竹數尺耳而執杭萬仞木葉彫蠶金錯屈鐵神飛彩動不見其墨汚
之處所謂公與此竹俱忘形者也君赫之画得之清人宋嶽々得之沉
誦々得之李用雲其法尤可喜也嗟乎稱漢画者多不辨八格十門下
筆則曰合天地耳鑿者或在其祖則其尊乃在君赫矣君赫姓宋名紫
石江都人也與余善其徒副段明勤之石以建於北堂
菅公祠畔蓋不朽其美也 銘曰 雄神所亭 平安 源之殿撰
免契鵬落 不篇而成 厘心貞節 副孟義建

此竹數尺耳而執杭萬仞木葉彫蠶金錯屈鐵神飛彩動不見其墨汚
之處所謂公與此竹俱忘形者也君赫之画得之清人宋嶽々得之沉
誦々得之李用雲其法尤可喜也嗟乎稱漢画者多不辨八格十門下
筆則曰合天地耳鑿者或在其祖則其尊乃在君赫矣君赫姓宋名紫
石江都人也與余善其徒副段明勤之石以建於北堂
菅公祠畔蓋不朽其美也 銘曰 雄神所亭 平安 源之殿撰
免契鵬落 不篇而成 厘心貞節 副孟義建

此竹數尺耳而執杭萬仞木葉彫蠶金錯屈鐵神飛彩動不見其墨汚
之處所謂公與此竹俱忘形者也君赫之画得之清人宋嶽々得之沉
誦々得之李用雲其法尤可喜也嗟乎稱漢画者多不辨八格十門下
筆則曰合天地耳鑿者或在其祖則其尊乃在君赫矣君赫姓宋名紫
石江都人也與余善其徒副段明勤之石以建於北堂
菅公祠畔蓋不朽其美也 銘曰 雄神所亭 平安 源之殿撰
免契鵬落 不篇而成 厘心貞節 副孟義建

此竹數尺耳而執杭萬仞木葉彫蠶金錯屈鐵神飛彩動不見其墨汚
之處所謂公與此竹俱忘形者也君赫之画得之清人宋嶽々得之沉
誦々得之李用雲其法尤可喜也嗟乎稱漢画者多不辨八格十門下
筆則曰合天地耳鑿者或在其祖則其尊乃在君赫矣君赫姓宋名紫
石江都人也與余善其徒副段明勤之石以建於北堂
菅公祠畔蓋不朽其美也 銘曰 雄神所亭 平安 源之殿撰
免契鵬落 不篇而成 厘心貞節 副孟義建

忌明塔 日所のありあり五揚石塔然高ハ八尺計あり石乃多居あり古より服藏旅
脱る日すハは様不詰て神拜とと穴を記ハハハハ

忌明塔 日所のありあり五揚石塔然高ハ八尺計あり石乃多居あり古より服藏旅
脱る日すハは様不詰て神拜とと穴を記ハハハハ

忌明塔 日所のありあり五揚石塔然高ハ八尺計あり石乃多居あり古より服藏旅
脱る日すハは様不詰て神拜とと穴を記ハハハハ

文子社 西京所供所のありあり初免天滿神七條文子小神祀ありて具宅小鎮坐し
あり後世其由縁とさふハハハハハ

文子社 西京所供所のありあり初免天滿神七條文子小神祀ありて具宅小鎮坐し
あり後世其由縁とさふハハハハハ

萬松山西雲寺 日所西側あり宗旨ハ天台律ありて惠心流之奉る阿弥陀佛ハ惠心
年れ草創之當寺ハ毎朝水施餓餓ありてハハハハハ

萬松山西雲寺 日所西側あり宗旨ハ天台律ありて惠心流之奉る阿弥陀佛ハ惠心
年れ草創之當寺ハ毎朝水施餓餓ありてハハハハハ

萬松山西雲寺 日所西側あり宗旨ハ天台律ありて惠心流之奉る阿弥陀佛ハ惠心
年れ草創之當寺ハ毎朝水施餓餓ありてハハハハハ

獅子吼山轉法輪寺

一條の西七年松あり地名張籠、鼻といふ當寺ハ

櫻町院の清宇宮中より命あり七寶曆五年尾張國岡田上人建立しり

本尊ハ弥陀尊坐し法衣長一丈四尺餘、面の方小後梅門の傍の壁五尺横四尺

二寸計銘文ハ從二位行右大臣菅原朝臣在家郷の撰りては寺造立乃因致と記

然る香積界の次の方方より一條の門と枕花門と云つく一條枕花坊といふ名義あり

次ハ四門あり南の門と照臨門といふ直日寮用雲寮ハ樓門乃傍ありこれを

貝葉翻て就鳥嶺といふ龍華此梅園して之葉小芳しく常行念佛の聲寂

寞として本奥の音ハ布谷ふ如く松の風ハ伴ハ十地の度もあふふか

云たて真又殊勝の津域也

蜘蛛塚

七年松通一條の西側園の中ハ一丈計の塚あり是とて古へは所ハ大寺あり

左平記叙巻ハ曰エの夜瀬頼光瘡痕癒ていふ後考あり一名ハ伏魔といふ

なりおころぬれハ頭つゞく身ほととて天ハつゞけ地又をほつゞけを留めしめて

あり頼光少一夜多けこの多しをあるの煩火のけけより長七尺計の法所

かとい記何者か心頼光ハ繩板付んといふを懸さぬうかして枕より立まれば

いしてこれハ妻がくを空ひたる灯臺の下より血を流しつゝりふ火ととも

大さなる塚ありこの塚へ入りつゝれを則塚と崩しつゝりつゝりつゝりあは

是程乃やつゝつゝりつゝりつゝり二十余日やほつゝりつゝりつゝりつゝりつゝり

寶樹寺

七年松通蜘蛛塚の東あり津土宗西ハ流誓願寺ハ属ハ本寺阿弥陀佛ハ

大師堂 詩内ハあり弘法大師自允の係二尺計天長年中夜雨ハ一町平金新

和光院

真盛町ハ例ハあり真言宗ハ告律寺と号ハ本寺兼所ハハ僧教大師乃

西京

歴代編年集成ハ曰西京ハ葛野郡之右京と云ハ又長安といハ拾芥抄ハ町小後ハ

東ハ千本通西ハ紙屋川の西二町餘ハ小至ハ大せくハ人家建候てこれハ

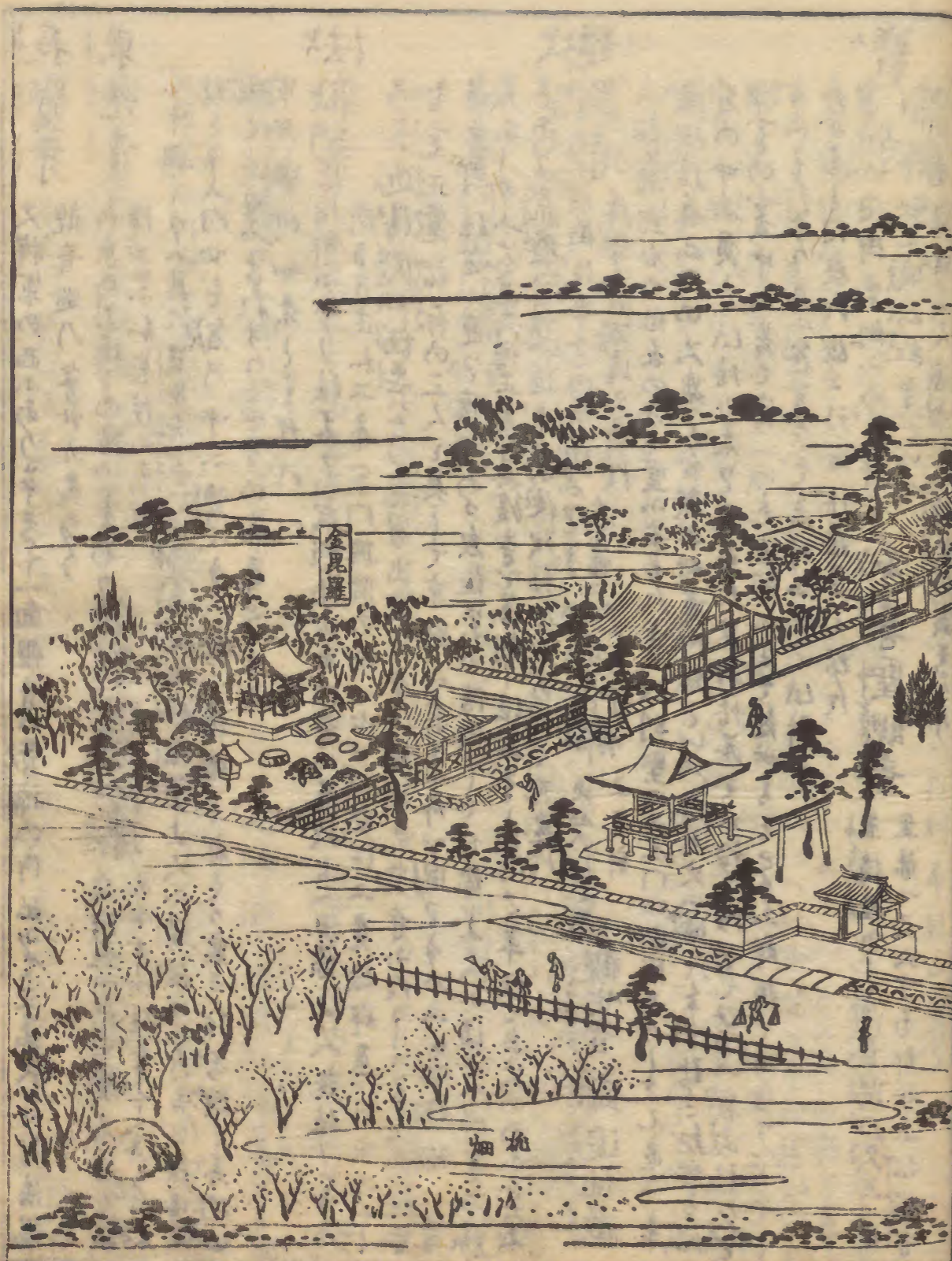
西京といハ 西の系行ハ一人のこころを人の不漢くけりてさすハ

大將軍社

西京一條の西大將軍町ハあり王城鎮護の爲むハ四方ハ社ありつゝり

將軍具註ハ曰天帝孫官を將之分て二十天ハ位を尊鬼神と鎮して四方ハ鎮護

と云ハ一説中古兵乱の時京城の西方ハ蜀の關羽の廟と建てたりといハ



金毘羅

畑



清和院
蜘蛛塚

本堂

長寶寺

大將軍の西ふり本多十一面観音の管神の所也之立係入計信陽
観音巡乃第廿九番あり

東光寺

西京所お通下の森のふあり本尊阿弥陀佛
安阿弥の他立係一尺二寸末板
西方寺の法譽上人はる小春
降土宗お恩院お属以

て中興し人其以豊臣秀吉公の愛慕松尾越前守上人小春依し秀吉公我場又
因との内必と致乃中お携へ中人故小陣佛と標とる靈を張考附し善徳の
軍機勝利如来とも存以

法華寺

旧町おあり法華宗武列此上本門寺お属以古一曰係上人説法し中人
所より正和二年宗門興隆の爲一七日の説法又貴族群衆して市の如し

智覚正覚祐存の三人と具して京師お至りお并て過り中人又かの群衆お驚
きて即法途お連り聴聞おの包経宗お信伏して曰係上人おはる人所着の御
紙おし中人大意大僧正是之具後寺と多創し法華寺とすつく幸経て是火のふお興お
とあり荒廢お乃一返本宗徒復初て今お如く再建以

超圓寺

旧街法華寺の南お隣り本尊阿弥陀佛
三尺計 観世音 跡追地藏
此の他立係

織田信長お門の大衆お合衆の財運阿弥といへ傍兵火お威人幸と致し観世音
名の中お負く此地お本と安ん其以地産するお不珍しく望田の農及新たを
つもの愛中お若て空おつと都お出で此世とよりお群衆と佛度せんと余し
お人おそれるお若て空おつと都お出で此世とよりお群衆と佛度せんと余し
観世音と曰座に故より追地産と標

普門寺

旧街東側おあり本尊聖観音
新檜植りて毘首觀し是乃他
坐係一尺六寸お都西京お堀邊寺
世お映お紅寺といへ

帝釋天

寺内お安ん弘法大師の他初丹別奉釈おあり
後世おお通り

當寺の庭中お映お紅躑躅お採樹て木の長おおより多し此世の花盛
又錦繡乃林お紅お連りお不催くおと都下乃以し其紅艶と賞し
てお群衆お故お映お紅寺と申おし映お紅お躑躅お採樹を
標してお映お紅お花開てお満お映お字義おお知れ大お二枝
紫お映お花開てお花開てお満お映お字義おお知れ大お二枝
九列薩お日向のふお多し
かの地お霧お霧お霧といへ

聖山西光院

西京前通の東お軒町おあり
此街舊名お仁お寺街道といへ
宗昔お降土律常行念佛の淨刹之門お大界外柵の標を置

本尊阿弥陀佛

金銅佛お坐係七尺
開基西隱上人俗姓お近衛殿下の家おあり延寶

二年お官お辞し之出家得脱し諸國と巡行するお年九て五ヶ年厥后都お帰て

弘陀尊お造立し精舎とておん幸と預りお小慶長の頃方廣寺大佛

殿の銅像お本佛お改ららんとて鑪火入しお佛像の母お持お持お持

尚えの如し諸人お奇異おありして妙法院お藏お西隱上人の佛像造立乃幸お

圓召乃其具お指お賜人即鎔範お入て鑄お忽相好圓滿の佛像お成お

延寶八年三月廿五日降養院是蓮社上人として開眼するお院の本を之お追衛



寺 教 立



下大圓満院良材と寄附ありて述小創建ある今の精舎是之因小曰大佛殿初像の

加茂靈鑑寺の鐘板鑄る事ハ前編小見へより

西院上人の入寂ハ享保九年七月九日あり

人磨石像首院佛殿の後堂小安堂享保六年卯子十八日の曉小安院ハ小

茶苞あるとのあり具財所乃人寄集るといふは此像あり原もつて

本ふしわの次樟の原ありてすふあへて解首鳥帽子被冠右の膝とまひて

画小ける人丸のやいつくより捨棄るといふ不審とあり尚院の門ちたんハ

此寺小安堂其世乃人堂より人丸寺といふ其後冷泉為村郷入道一法法證賢

と名乗るとありは信頭と聞召と本尊の由縁ハ磨石像ありといふ具了記

一あり後小六字の名號板首小冠とて六首のわらと詠共小筆板漆あり一

抽り當院小藏免あり

内野西京のより放つ二番町より七番町まであり大内裏の時皇城乃内より人

新橋 九条の内院に雪小流はけてをふ子代乃乃故んはの那少將内侍

國生寺内野五番町あり浄土宗黒谷小属本尊阿弥陀佛ハ慈覺大師の化立像

老子堂門前あり聖徳太子浄自化の教と安堂ハ所父用明帝所收平金乃とる

烏樞沙摩明王老子堂脇小安堂ハ化人の像

祥光寺内野六番町あり浄土宗西山派本尊阿弥陀佛立像ハ尺計綱基ハ後

運ハ脱法の聴衆祥光寺集りて楡麻のきく一遂ハ寶曆年中此寺板草創りて

竹林山福勝寺小舟通浄土宗西山派真言宗本尊不動尊の化ハ綱基ハ覺濟僧正

福聚山慈眼寺同街七本松の東あり浄土宗曹洞本尊聖觀音延鐵の化坐像ハ尺計

乃辻子ハあり其乃故今慈眼寺の辻子といハ中頃永極丸右町の小あり

中ハ今の地ハありつと作曹洞宗祖城前永平寺道元ハ尚常ハ諸涼師を

藝の地ハありて修門の居子ハありとあり故ハ師家の寺院掃りあり今

觀音寺七本松通出水あり浄土宗本尊阿弥陀佛總覺大師の化立像ハ尺計綱基ハ方

觀音堂門前あり浄土宗本尊阿弥陀佛總覺大師の化立像ハ尺計綱基ハ方

を助く其内ハ再興ハ報恩のゆゑの人聚るゆゑ千人堂といハ此像あり



衆雲

金盛の
 夕暮
 一とと
 うの
 雨霧の
 めぐみ小
 夕陽
 小



北野 映山紅寺

華開院 西京野田町あり浄土宗 本尊阿彌陀佛 本尊大阿の位坐像一尺寸五分直如堂
鎮西派浄土院の属に

當院古へ天台宗ありて開基ハ 龜之院の皇子四品兵部卿守良親王に上りて號の係
起つ後浄土院の皇子 出家して法遠和尚といふて即安居院に土宮と寺と
と記すに浄土院あり

子ハ其後弘安十年園城寺の浄華坊證賢に之歳の対天名を告げて浄土の易いふ
入吉水の流と禮阿上人の及向阿上人と名を改め鎮西四代の法孫當院の二世板嗣又

浄土院の開基に元亨に保努守貞經が兵庫頭貞國當院の本を以て示現板嗣を
兄貞經が家督と相續し當院の権越とあり着る所の重名板嗣を以て 初は五辻大入小

院町といふ其後系極今出川のふりうり又寛永年中此地ふりうり十夜の法念ハ慈覺
大師歸朝の後よりて何れも真如堂當院二箇に傳り後世浄土宗の法式といふらん

浄土院 下之賣七本松の西藍屋の辻ふり浄土宗 本尊阿彌陀佛 慈覺の位長一尺寸五分坐像
浄土院の属に開基ハ慈覺上人天正年中の建之

西蓮寺 同街七本松のあり浄土宗 本尊阿彌陀佛 慈覺の位開基ハ正尊上人
浄土院の属に

觀音堂 寺内ふり本尊十一面觀音ハ皆神の所依之像又尺計竹を金寶攝次ハ
念持佛といふは後陽觀音巡の廿八番也

出世稻荷 千本通下之賣の南二町ふり此地初ハ内藤氏 公願之享保年中兼
依持寺ありて此地稻荷社名苑町ハ實得して社殿再建以出世の号を以て
依持寺の由縁詳き次第世靈驗昌んたりといふ清人より此地の 公願寺
稻荷社所ふり繁ふりてあり

梅雨井 下長者町和名町の西側 仲夏入梅の節霖雨降續き梅雨晴んといふ
人家田中氏の末裔あり

七日計の同此井より清泉漲り出井幹依越と流とあり本年よりて旱して雨
多れと俗に空梅雨といふ其感ハ水洋溢りて常の如し

須廣明石名所圖會ふにあり

松林寺 智惠光院通出水の南あり浄土宗黒谷の属に本尊阿彌陀佛ハ聖徳太子の他
依持寺ありて此地稲荷社名苑町ハ實得して社殿再建以出世の号を以て
依持寺の由縁詳き次第世靈驗昌んたりといふ清人より此地の 公願寺
稻荷社所ふり繁ふりてあり

稻荷荒神社 大阿の他平安城開闢よりあり鎮坐ハ居成荒神と呼び又稻荷
明神同社ありて稻荷荒神とも稱せらるる是非取らる次第今天台宗の傍位して
三宝寺と号し之林毘沙門堂の属に

順興寺 九右町通堀川の西あり西本願寺の院家之初ハ何別證提村あり寛永年中京都
板九丸と号し父蓮如上人 本尊阿彌陀佛 法日の位立像二尺寸五分

斤破名號 天正年中織田信長と本願寺頭上人と大坂石山合戦の時二代龍從上人
龍從上人が助け身代と成て討死を不思議ふも鐵の袖不入し蓮如上人の書より二
字の名号とあり二ッ切り斤破の如くは討死の味方ふも二ッ切りとありの付室に



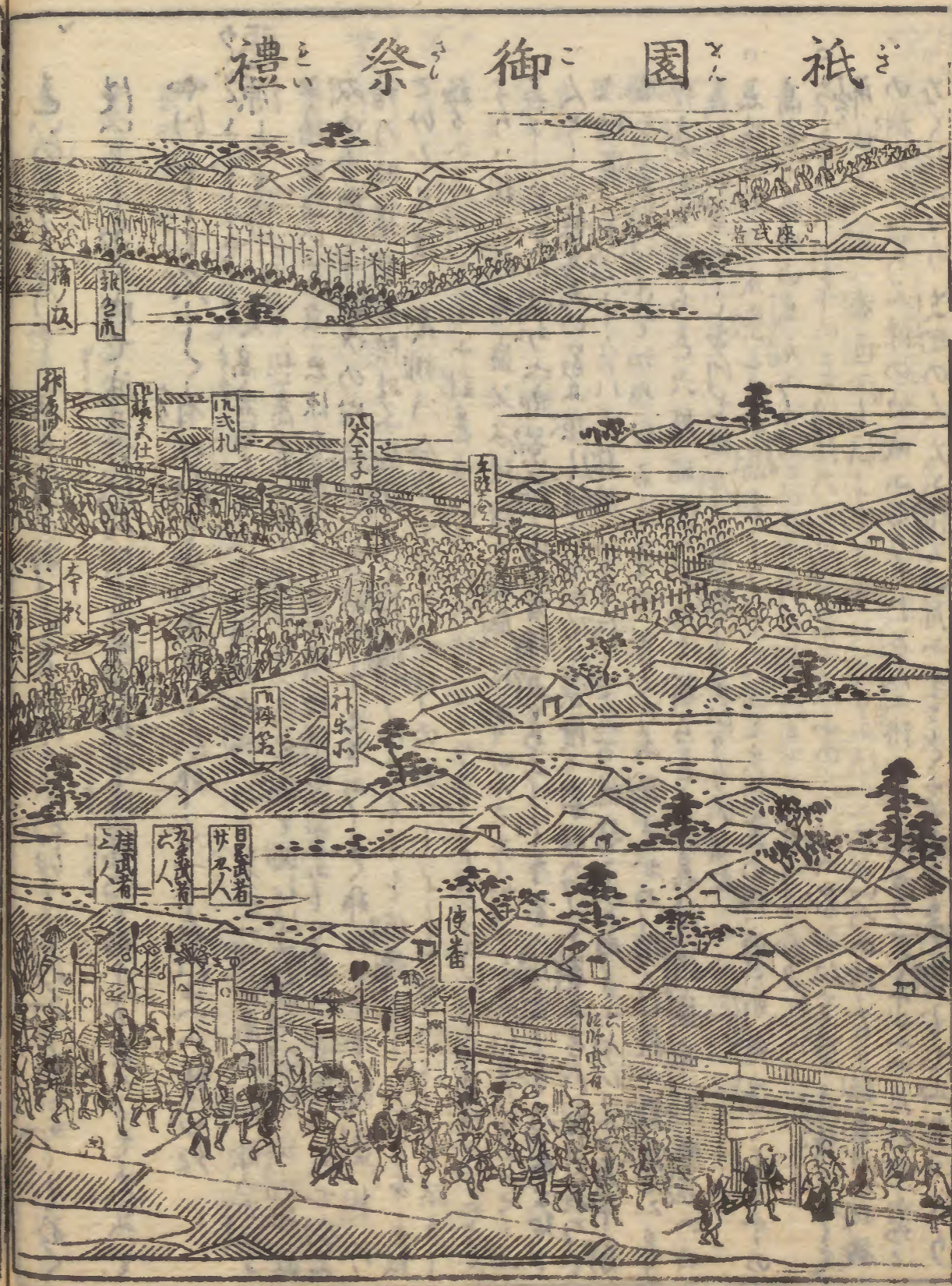
鉾の鬼

志
まの
く
へ

祇園會鉾の鬼は其町々の
當家よりあつひ半上り日
本社へお詣りさしお歳を又
して右奥へ寄せし歩徒
後丁徒者多く別と正し其
行新風流をさして死高貴
の然るの如く是るん
神の威徳れいら
まろくろくへー



祇園御祭禮



後ろふは林檎の本七月に再生して芽と發し枝葉繁茂し花は夏の末のくまで九月
の發する実と結びたり人の現在の奇異ありて驚懼世次といふ事あり四月の春と
成範卿家 榎町中納言と号し少納言信西の息男小督殿の父と
長門本平家物語云
成範卿と榎町と中納言本平の御孫と號す愛しけり坪小窪室町の名所ふおは乃
見入り西東に町と對て並木の榎と植通されたりとされし遠近人異名ふは町
とば榎町とを中納言と云ふこととされしは花に陰を守り明されしは榎本
中納言と云ふことと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
詔ふは下されり 源平盛衰記云 此町と榎町の榎町と中納言と云ふ事と云ふ事と云ふ事
七日の朝の暁に花は白く人々を驚かす事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
中納言といふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

飛鳥井 萬里小窪二條の南東側人家の裏あり
萬里小窪の西と云ふ事
あつ井のまゝ乃心と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
らつやぬあつ人神乃神といはれしは花よりいとのひふる事
飛鳥井 萬里小窪二條の南東側人家の裏あり
萬里小窪の西と云ふ事
あつ井のまゝ乃心と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
らつやぬあつ人神乃神といはれしは花よりいとのひふる事
飛鳥井 萬里小窪二條の南東側人家の裏あり
萬里小窪の西と云ふ事
あつ井のまゝ乃心と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
らつやぬあつ人神乃神といはれしは花よりいとのひふる事

三條右大臣家 定方卿之拾芬抄云二條坊門の
萬里小窪の西と云ふ事
三條右大臣家 定方卿之拾芬抄云二條坊門の
萬里小窪の西と云ふ事
三條右大臣家 定方卿之拾芬抄云二條坊門の
萬里小窪の西と云ふ事

法泉寺 萬里小窪柳小窪の南麓石河東側あり東本願寺小属は本尊阿彌陀佛の
慈覺大師の化之像云尺計原の天台宗封境方一町ありて善法院南之坊
と号し親鸞聖人乃舎弟深有僧都の住職なり所と舎兄聖人園東より上流
の後時々はさふ米つて大衆易行乃法流派弘光の満齡九十歳の時遷化し乃
もは地あり故に聖人齋跡の一貫と改聖人感後念宗とあり
本願寺傳記曰禪房の長安馮翔の邊柳小窪の南萬里小窪の東と云ふ事
法泉寺 萬里小窪柳小窪の南麓石河東側あり東本願寺小属は本尊阿彌陀佛の
慈覺大師の化之像云尺計原の天台宗封境方一町ありて善法院南之坊
と号し親鸞聖人乃舎弟深有僧都の住職なり所と舎兄聖人園東より上流
の後時々はさふ米つて大衆易行乃法流派弘光の満齡九十歳の時遷化し乃
もは地あり故に聖人齋跡の一貫と改聖人感後念宗とあり
本願寺傳記曰禪房の長安馮翔の邊柳小窪の南萬里小窪の東と云ふ事

法泉井 當寺乃を中あり往昔親孝聖人止住乃時は井坂堀あり
水底石ありこれと引揚る形虎乃形なり故に聖人銘して
虎石と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
號此井より起す
法泉井 當寺乃を中あり往昔親孝聖人止住乃時は井坂堀あり
水底石ありこれと引揚る形虎乃形なり故に聖人銘して
虎石と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
號此井より起す

願樂寺 日町西側あり東本願寺小属は初江別久治ありて本尊阿彌陀佛の
ハ佐々木家の一族者也在衛門尉頼方法解正頼と号し蓮如上人の身なり
三天儀 當寺乃什室之享保年中檀越の佐々木源慶と云ふ人あり
影板附を旋右旋乃運光板あり練達し本朝天文の真儀と云ふ事
三天儀 當寺乃什室之享保年中檀越の佐々木源慶と云ふ人あり
影板附を旋右旋乃運光板あり練達し本朝天文の真儀と云ふ事
三天儀 當寺乃什室之享保年中檀越の佐々木源慶と云ふ人あり
影板附を旋右旋乃運光板あり練達し本朝天文の真儀と云ふ事

天文儀 是預樂寺の祖と同姓の由縁あり毎年祭日の日三天儀と云ふ事
天文儀 是預樂寺の祖と同姓の由縁あり毎年祭日の日三天儀と云ふ事
天文儀 是預樂寺の祖と同姓の由縁あり毎年祭日の日三天儀と云ふ事
天文儀 是預樂寺の祖と同姓の由縁あり毎年祭日の日三天儀と云ふ事
天文儀 是預樂寺の祖と同姓の由縁あり毎年祭日の日三天儀と云ふ事
天文儀 是預樂寺の祖と同姓の由縁あり毎年祭日の日三天儀と云ふ事
天文儀 是預樂寺の祖と同姓の由縁あり毎年祭日の日三天儀と云ふ事
天文儀 是預樂寺の祖と同姓の由縁あり毎年祭日の日三天儀と云ふ事



空也堂
 誦念佛

徒も
 空也の
 瘦も
 此中
 三々



定家卿家

二條の山本松乃西ありてとれ家系乃曰為家卿の後二流とるは
為氏卿孫二條家と号し為相卿孫冷泉家と号すはとま
云州宿うとそ都の内とていふた人めまらざる庭乃月うけ 定家卿

定家卿の事行々家系に立入てか人伝るあり
のみのりて掛てゆる梅のた乃枝小伝ひつげは
風雅 定家卿を省ひひうふれりてつねね新ふはり梅うえ

水福門院
内侍

京極入道中納言ハあはれりて梅松あし柳らりてくらと多りたる京極の庭乃
南ひふ今も二年ゆるまて

白山社

白山通押小路の南あり京井加賀園白山権現といひ治承の初白山の倉
内裏小強新の末ありてそのの事ありていふは神樂振てけ所小松
金より敷との例小敷してこれ神樂振てけ即 勅ありて知法一なるなり
當町松上白の神の南坂中白の神小松の南と下白とあり

布袋薬師

白通二條の小路あり本寺薬師佛ハ聖徳太子の化坐像九寸五分實ハ昔
提業師とて假名の字形とて是縁かていと云ありて今天名宗利生院と号し
ふ古ハ大五宮田御廣願あり 桓武帝の時時ハ京の門を今天名宗利生院と号し

紫式部家

京極正親町の南とて河海抄を以て京武部の旧乃ハ清水院正親町の以
南京極の西類今の東小院の向とて云

常盤井

拾遺抄曰春日の南京極の西乃大花實氏との家ありと云云傍後を正元之年
ふかきおと入道ハ常盤井とて大炊内門京極の所ふありて後入
名奇 己る月とやとの人は人といふは子年位へと名盤れ望 後醍醐院
やうそ我をといふる常盤井の水不流るる月ありてと

天満宮

此乃所通京極の南ハ北側あり
菅家高辻殿乃御鎮守あり

奉先の額

攝政九條殿下尚實公の御筆と
當社の門に掲ぐ

遣迎院

京極通中河原乃小あり京首ハ四宗義學うて廬山寺二尊院般舟院當院
まもと四箇の本寺といふ用ハ善惠上人室治元年十一月廿二日入寂一八二一歳

本尊二尊佛

釋迦弥陀共ハ安阿弥の化 元之大師像 自化坐像
之像二尺計遣迎の号あり

雲水井

客殿乃聖ありけはけいありハ東北院の方境あり
其内ふあり一井と

光了山本禅寺

京極通石原所門の南あり法華宗勝劣派用ハ日障上人應永
十二年小高寺法建之同廿六年五月廿一日入寂ハ八十一歳

立像釋迦佛

金銅長一尺計日蓮上人の念持佛初ハ江列あり極の立像寺あり
後世より又うると高寺ハハハ本寺の一尊ありて旧地ハ四條堀川と

安禅寺

同街石原所門の南あり真言宗本尊愛深明王弘法大師觀音より隨身の
尊像ハ脇壇在空韻赤觀音右不動尊共ハ弘法の化あり中興ハ傍於竟之

神明社

所遷宮の時神名ハとてハ家より調進と

梶井天満宮

京極中河原の東 梶井所門跡乃所傳色ハと 菅贈大相國左宰相
初ハ小の方所門の側ありて道來ありと

権帥小殿任内

時天台の座主は性坊尊意多奉所交とあり
ハとてハ

比叡

やうそ我をといふる常盤井の水不流るる月ありてと

人院

菅松菴の硯ハ墨とて流さるる万緒の清心とてありて菅松菴也

られし畫像の硯と取らるる僧正の像ありし所硯ハ 梶井清門跡

の寶庫に傳つし神像ハ清境内の社に藏りし世に菅家の清神像多くと

見性寺 二條川東にあり津土宗知恩院に屬し本尊阿彌陀佛 更なる他

本願に懸正重勝ハ織田信長公乃庶子に村井春長軒小舎と云

或時直指人身見性成佛といふ八字の旗と揚ぎ旗取らるる天正十一年

六月二日明智乱の時織田公乃春長軒死あり依之此寺を建立

し之件の旗取土中へ埋て見性寺と名づく日十六年六月あちふ於て

七回忌追善の對豊臣左衛門督一少ひ十七石の寺領を寄附せらるる膳正

法名見性軒の墓當寺にあり具子孫原田村井乃兩氏且越り

三福寺 二條川東にあり津土宗誓願寺に屬し本尊阿彌陀佛 定朝乃他

夢見地藏 寺内心安堂に定朝の化立像あり後一條院の后上東門院差中

前大納言為世三福寺を聴聞の次は漢文の對述候

名取けし強とるのそりしは本寺よりすかおれ浦浪 示證上人

松不通馬丸 氏家裏

後成卿社



聞名寺

二條川東あり時宗相別藤澤小属に大炊道場といふ本尊阿弥陀佛を

秋野道場

寺内あり古に南都ありて聖徳王乃草創之中に京都二條鳥丸

法鏡山妙傳寺

所東の端あり法鏡宗一教派同基八百意上人初八層の堂あり

日蓮上人像

坐像二尺初ハ上京興聖寺あり蓄寺の六世日蓮上人靈夏

大恩寺

所あり津宗本尊阿弥陀佛 慈覺大師の化後陽四十八願巡の身廿二番之

教安寺

所あり同宗本尊阿弥陀佛 同基八窓蓮社社尊上人

空中山寂光寺

所あり法鏡宗勝券同基久遠院日蓮上人初ハ室町道場あり

信行寺

所あり津宗本尊阿弥陀佛 定朝の化之像二尺八寸計方除本尊に四十八

要法寺

所南の端あり法鏡宗勝券同基八百意上人初ハ室町道場あり

初ハ室町道場あり法鏡宗勝券同基八百意上人初ハ室町道場あり

安養寺

京極四條坊門のあり津土宗西之派 額 安養寺 書 後修草院の慶華

本尊阿弥陀佛

去日の化之像六尺三寸此本尊の華嚴八葉乃蓮華と倒みあり

乃ハ相議して倒蓮と云ふなり本尊は足即女人胸中蓮華創あり

善導大師像

長一尺二寸計 法然上人像 觀鏡乃化坐像 一尺計

蓮寺

京極通錦小治のあり津土宗百万画小属に

本尊阿弥陀佛

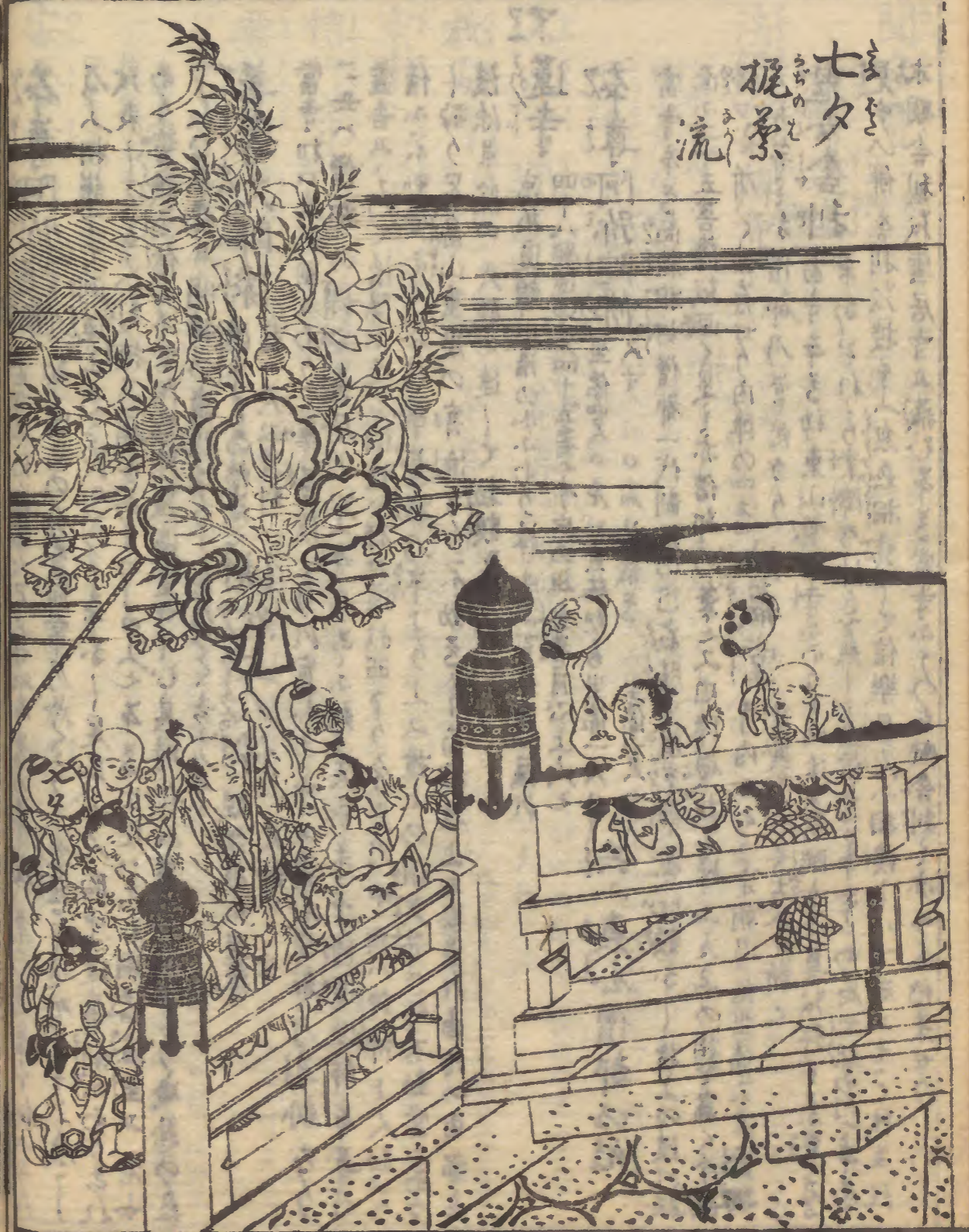
坐像四尺。在如意輪觀音坐像一尺一寸 共ハ惠心僧都の化

當寺本尊面類相好僧都一代制死の内寂勝之後老華聖比類ふ一柱上の儀れ

鬼女舍利

者寺本尊初東山雲居寺ありし附近の醜女本尊被拜と云ふ事

見ゆハ併舍利に授けり忽ち相變して信樂昌人ハ相候ハ八十歳五至って往生



淨教寺燈爐堂

京極通儀小治のこゝあり浄土宗知恩院に属して四十八願巡の身四十二

堂と号し事ハ源平盛衰記ふとへより後世迄中東院高辻ふより一三二年中

又此地ふよりと鎮守ハ慈深三所権現之中興ハ立誓上人

聖光寺

日街後小治の南あり浄土宗一心院に属して

本尊阿弥陀佛

立像二尺計初ハ丹波國桑田郡條村ハ幡宮乃作本此佛之

清海曼陀羅

ひく蓮の糸やく織る清浄水寺の如き化人と成曼陀羅と圖

法眼法門ヲ聽受し安公變定のうハ曼陀羅羅上人ハ寄附せり

法然寺

京極五條坊門乃小エあり浄土宗知恩院に属して

本尊圓光大師像

浄自化蓮生法師像 自化坐像一尺計蓋の圓基より慈谷

折安居院聖覚弘して師のる像ヲ懇々と師を乃深志ヲ成して自化の本

慈谷寺と号し其後九ヶ年成歴て上洛し後下り於て又一寺ヲ建之

勅額

極樂殿と書に後伏見院宸筆極上中央小揚方正安年中 後伏見帝

行と法然法師之預くハ弥陀佛ハ歸入し念併しあり浄極安泰なりと

空也寺

同街五條坊門の南あり浄土宗知恩院に属して四十八願巡の身四十一番之處あり

本尊阿弥陀佛

立像二尺二寸四分ハ錦小路西院乃あり

無願寺

空也寺の南あり浄土宗に属して

德正寺

富小路通四條の南あり東本願寺に属して初ハ東ハ大谷の邊あり

本尊阿弥陀佛

安阿弥の化立像二尺餘初ハ四條奈良物町大膳銀治が持尊あり

寺説曰文明三年二月十六日願乃慈徒四五百人當宗の興盛成如人と大谷
本願寺親聖人ハ廟塔ヲ破却せんと欲し蓮如上人防ハ便あり同之の教傳成
先之く密小道と云井寺乃別院近松寺ハ階居し人時ハ欲前園荒井の信人
井上允前と云人の羅髮して預知と号し是當寺の同基ありは傍踏歩く
身命と捨強く於人故ハハ徒祖廟ヲ發羊成得として退散と云れんて
蓮如上人より感状と賜る其文ハ曰

今度本願寺依破滅山頭之惡黨等閑山上人之遺骨欲掘返所願如
依一身之才覺全御番仕不移轉糸一世之満足未代之名譽
神妙也為褒美内木佛令殺與候也難有存子々孫々迄
御庶所之御番可仕者也

文明八年正月十八日

蓮如在判

勝久井

當寺の堂前あり細川兵部少輔勝久

當寺乃什物小親考聖人の筆十字名号後西院の辰輪六字九字乃名號 親考聖人 蓮如上人の遺骨 秀吉公朝鮮發向乃軍鼓あり。又毎年新穀の初夜又平布 入道真佛上人の傳説 講讀

南岩藏石不動

松原通教屋町の角あり真言宗高野山明王院通教所

寺記云當院初は法相宗少て持統帝乃降宇兼雀五年又道觀大徳の草 創より其以は地相相森々く其の中一堆の丘あり平安城開闢 の後弘法大師は石佛依はりて安置し又詔ありて王城法護の 為四方小徑玉を石藏ふねらば所と其一負ありて南岩藏と名を 其後天曆年中鴨川沿水の時堂舎も没流し荒廢ふ及ひて之門 乃僧菩提 勅放しけく再興とされり年累り應仁乃亂後又額 廢し石佛も塵芥乃中あり天正年中聚樂城造営又奇石散多々 是をらばきたれと石佛とて其時菩提とてあるありと聚樂城入り 仰れ所後く若松城にして城中又怪異多し故云元乃地不五しとる是より 後小堂と營てき又安置し靈驗古今小新と

鐵輪塚

堺町通松原の南あり信之昔嫉妬はたあり折て毎夜その時春と云 氣病てき又死と其靈氣集とて今人あ建後て詳あり

大江公次貞家

東院通五條の小東側人家の裏小高樓あり是其旧ありと世人 袋州紙云後因ハ古曾都より毎年花盛ふ上後して大江公資五條東院の家小 宿と件の家の有るを樹あり其花散人爲と云

御射山諏訪社

東院通六角乃有御射山町人家の裏あり信別諏訪明神と初傳と 鎮坐乃年記詳あり

住心院

東院通三條の南あり天台宗修験道ありて聖護院の夜家とて大僧正澄等 中興しより堂上の華族入院ありて所嗣職しハ代々勅願所とん

本尊毘沙門天

運慶乃化立像四尺八寸中漢大傍正是諱一夕の差ふ乃方 十里餘歩行一ツの高ふ至まば松栢蔭鬱として巍々

光明燈々々として多門天とて人々大僧正隨喜致れして是さめ奇異なる 其聖也 妙法院亮想法親王より金剛院僧正命して此を係附属 一人諱師長中のるを又送りて拜領して初を攝別本寺に 安置し尊天告命ふより當院小遷し奉り尤西佛師乃化して人日如 表右弘法大師の化して人愛深明王友脇士とて近年 堂舎再營ありて 是れ人絶

鼠突不動尊

六角堂の西隣る住心院小属本尊不動尊弘法大師の化坐像三 尺寸照燈は日如未と安ん智證大師の化又亦天ハ傳教大師の化

大師堂

松原因幡堂の西之坊あり密藏院醫王寺と号し近年堂宇建立あり 堂後西向且額と揚々松密藏と書に智積院動明僧正の筆

弘法大師像

真言新義の宗祖興教大師の化坐像三尺餘舊はる係ハ初列 一乘根末寺の本多之天正十一年兵火の附かの寺乃學頭

中性院性盛上人小靈告ありて當院小遷と奉り久く密藏院小安んく天明之 年今の堂内小うつと又真言新義中性院傳受乃松密道具當寺中興性盛上 人より修末して 早咲椿 當寺の境中あり後水尾院は桂と愛せし勅し 今はきにあり 銘次因幡堂と揚々具席 禁裏御口切の地を以 用はらる

いみじくもふりくハ子代も花あまて玉様とて極や並々人 湘夕



美とる

阿南梨の

五や

風葉店

辰平屋



比叡山の阿南梨寺師と
 年毎の一夏小嶮路を
 以てら辰月々下山のりて
 美洛の天社を巡るい
 是を今下安泰の祈禱
 寺々々々其
 道條小諸人
 半く阿南梨に
 念珠と戴こ
 結縁とるも
 真如法此の
 佛界にいさる
 の

まの
 寺

六秋念佛へ毎歳七月
 十五日小在郷くろおのく
 従てまゝく郡の町々よ
 出孟蘭を要會魂家の
 馳走小家々の下を小
 より仍ひたる
 近幸へおどけ
 物言分佈下て
 衆人の目とぼけり
 ひるも二佛業の用
 するはりるらん



さらさら
 いろせき
 びくり
 魂まのり
 加賀
 小代





飛梅

西洞院高辻乃小葉大社方あり圖ハ前編ハ久々ハり拾芥抄云
天神所高辻の北西洞院の東洞院面と云々

菅家文章曰

東京宣風坊有一家家之坤維有一廊廊之南極有一局局之開方線
一丈餘投步者進退傍行容身者超居側席先是秀才進士出自此局
者首尾畧計近百人故學者目此局為龍門又号山陰亭以在小山之
西也戸前近側有一株梅東去數步有數竿竹每至花時每當風便可
以優暢情性可以長養精神余為秀才之始家君下教曰此局名處也
鎮仰之間為汝宿廬余即便移簾席以整之運書籍以安之嗟辱地勢
狹隘也

誕生水

同社東の方
誕生之水再見澄清汲焉不竭注焉美盈法行取象不樂自平鳴乎神
德永仰其明 明和二年乙酉 東都烏石葛辰書其篆額

大泉寺

五條の西洞院月見町小
淨土宗知恩院小屬

本尊阿彌陀佛

立像三尺八寸計

當寺の中興ハ賢公上人二世賢親上人住職一ノ人時寛永七年二月十四日の夜
又在る生並樂の委首松靈告ありて具曉天小異香薰一ノ天華降々り是より花
如未と稱ト号松花松ふくや又如未右の御松
松申と衆生引接の相と花のぬれ汗袖如未と稱と
親鸞聖人花園舊跡 此の地ハ原九條殿下兼實公の別館ありて花園亭
ゆい山亭の傍小止位一箇と偏て垣より草庵取營と云ハ少人葺牆浄坊と
おつ常陸國小條平布位は地として聖人の教化を受く無界とハ兼松の半
聖人傳記云へり其後は所と花園院と号
真佛上人小階居り一ノ半佛光寺經訓傳あり

本願寺傳記曰

聖人故郷小歸り住事と号り又年々歳々差の如く紅花ハ長安洛陽の地と蹟取
やと小娘とて投風馮翊と号く小接位一ノした五條西洞院つらまれ一の
勝地とて志どく居候あり今此つらへ口史板傳人面受候とげ一門徒
等おのく好と慕ひ路板訪く春集一ノみり云
佛光寺繪詞傳曰

建曆二年九月用山

親鸞
聖人小別公階一宇と草創一興正寺

皇後真佛上人
專修寺傳云
附法相承之

歸京の後五條西洞院殿

嫡弟平國香後亂下野國司大倉家之
喜男嘉二年二月廿日化五十歳

月見池

書院のわくあり小あり意實公池水の月と
對し今今門方松月見町と云

獅子巖

比の石乃形ハ獅子乃蹲踞と云ハ古代の
奇石之親鸞聖人腰掛石とも云ハ高サ三尺計

珠數掛梅

獅子石乃傍あり
古梅一ノと樹枝
長く延く花魁のほ芳芳と親鸞を人會珠板は又クハ
物ハ後所推現親鸞聖人對坐の沖あり小覺如上人安樂集乃文と引て別儀ハ
嘆ここと人其外覺信尼の教真向の淨陀法然上人自画の教蓮如上人六字の石あり
あり大泉の号と池中ハ清泉より出て親鸞聖人齋院一ノあり

尖尊社

油小路通後小川の石風早町小あり小社ハ夜交虫見尊之火災除成と折小靈驗あり
例京ハ九月廿八日二側ハ天宮あり當町ハ祇園會天社山町ハ其神像取云々

鎮坐ハハ又ハ所の東後小落サリ河小例路次の奥ハ秋風遣の石あり甚古代の
弊ハ世俗武藏坊各慶賀といハ由縁詳ハ



大泉寺



八磨御霊社 醍醐通高辻の南東側人家の奥あり初は只片霊祠と云ふなり一後藤卿乃

一 道院 堀川通五條坊門小あり法華宗本願寺一層に開基ハ吉祥院日喜上人中興ハ

日蓮上人像 経王祈禱所の類聚帳に 霊之法皇乃勅願所と云

蛭子社 四條通油小路の西軒町小あり祠あり井中より

本行寺 醍醐通後小治の南あり法華宗妙覺寺小属に

日蓮上人像 追従一尺二寸計古ハ房別建生寺小あり奉ハ法華宗靈徳記云云と云

相逢社 堀小治通新町の西高松并明の南人家の裏小あり日吉山王の末社なり其を

草履社 堀小治通新町の西高松并明の南人家の裏小あり日吉山王の末社なり其を

迷子 呪ハ聲ハ血ハ啼ハくま

兒薬師 三條通油小路西あり音徳寺と云久代 龜山帝清初雅小治にまんと云云

又旅社 三條通油小路西あり音徳寺と云久代 龜山帝清初雅小治にまんと云云

三寶寺 二條通大宮の西小あり洋土宗百万遍小属に

本尊二尊佛 阿彌陀ハ覺大師の他之像ニ尺餘 十一面觀音 聖徳太子の作也

正運寺 四條坊門大宮の南小あり洋土宗黒谷小属に寛永十年の草創あり

觀音堂 寺内小あり奉者十一面觀音ハ和列長谷寺の本尊と云又曰是より

集社 四條坊門中本通の東圍乃中小あり古ハ社頭觀音と云今小祠と云

水 四條の西千本乃東南の方圍の中小あり花杉一樹の本小祠と云是より

四條乃有坊城の西縁小治れ小と云

と云ふ云云を云ふ云云又つらつら一はのふれも花咲と云

と云ふ云云を云ふ云云又つらつら一はのふれも花咲と云

と云ふ云云を云ふ云云又つらつら一はのふれも花咲と云

と云ふ云云を云ふ云云又つらつら一はのふれも花咲と云

と云ふ云云を云ふ云云又つらつら一はのふれも花咲と云

と云ふ云云を云ふ云云又つらつら一はのふれも花咲と云

と云ふ云云を云ふ云云又つらつら一はのふれも花咲と云

と云ふ云云を云ふ云云又つらつら一はのふれも花咲と云

と云ふ云云を云ふ云云又つらつら一はのふれも花咲と云

と云ふ云云を云ふ云云又つらつら一はのふれも花咲と云

と云ふ云云を云ふ云云又つらつら一はのふれも花咲と云

壬生
集社

集社

水茶の系の名産、味は
 渋く、西の地は味よく
 株小く葉のどろ細く
 あり、故に茶葉を
 り、一説小水茶、あはれに
 去中葉より、こ七細より
 入る、去る、桐子の若
 小入、封して廿日
 の遠路、これ、開
 水とて、これを



風の
 香る

荷捨世出

三月
 廿日



体勢寺

錦小治通大入のあわりの津玉宗西公瓜 本尊阿弥陀佛 八幡宮の神他子像を今守計 四十八願巡乃今二番より

聖徳寺

後小治通大入のあわりの津玉宗西公瓜 本尊阿弥陀佛 聖徳太子の九条像を今守計 四十八願巡乃今二番より

聖徳太子四十二歳尊像

当寺の太子六角堂尊像は 寄りて香燈法持りて 聖徳太子の九条像を今守計 四十八願巡乃今二番より

壬生鱧口鑼

壬生寺前縁ふたへより創年二月大念佛の法舎ふ堂ふ小掛る鑼名 寄りて香燈法持りて 聖徳太子の九条像を今守計 四十八願巡乃今二番より

壬生忠岑現

壬生寺ふあり石乃 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

一夜天神

壬生寺の門お成家初開あり 小坪一乘松の靈辰勸法しり

月輪寺

壬生寺の東三町計ふあり 津玉宗西公瓜 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

本尊阿弥陀佛

念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

歸命院

旧所歸命院町あり 津玉宗西公瓜 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

本尊阿弥陀佛

念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

中堂寺

松原通大入の西三町計ふあり 津玉宗西公瓜 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

長圓寺

旧所中堂寺のふ隣り津玉宗西公瓜 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

観音堂

本堂のふあり本尊觀世音 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

親衛堂

長徳四年の冬痘瘡 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

止り諸人安塔

念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

本園寺方丈

當寺の園前縁ふたへより方丈の額 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

人磨社

方丈のふあり初ハ紀貫之の勸修 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

足利尊氏公神祠

再管しりいねふふ縁と 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

水の柳

念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

茶亭

方丈の真ふあり 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

駒鞍

松小治通大入のあわりの津玉宗西公瓜 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

雛形石燈燼

方丈の左 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

假睡手洗鉢

日所ふ 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像

馬駈場

又客殿の東縁の中ふ長四十町計 念紫りて現の鑑比像ふ志岑れ文まま 中治苗寺の山圃の中より鑑比像



扇折子
やま
仲親堂
涼丸
風成
箱入り

野林



折子
扇
堂

三善清行家

五條堀川みわりのとを舊は洋ありはそれほ行へば覽表あり文章多くは本朝文粹の載り其上周易曆術算道の達人と寛平延喜乃二朝小仕へく詩賦を善に淨藏實所の父なり

今昔物語云

宰相三善清行の一人となり五條堀川のやうなる荒らるる自家を悉く家より人位として久しく成りたる三善宰相の家へ入りて此の家取取く吉日な多しを遷りふたり具夜子の外より小は氣なる女の肩に俵して智をうりて歸心よりまはに脇四五寸きりて銀をけりて奇異との多しなりて小塗籠に入るとて因宰相をまふし騒いで居るふ有明の月れ明らふ清美の赤袴着るる公羽文袴の文とて捧ふり跪て翁申さく年来信候はける所とて居るを免れ人を禁中うんがふ系うては宰相の曰汝が恨之願當らざるとそれ人の家と領とるまへ代々次々不徳傳へく場々も人後々後人の供へく居る人れ所と知る人と勅して信をば押居て領とるまはせたりと海に必天の責當りといふ次第不具道理申めむとて室へ翁を顔と低く涙をこらしと流しを答つふ道々も道あり人と愕し候へるまを公頼

堀川御所源義経館

東へ油小治西へ堀川と限りしは堀は有る楊梅と厚る有る学寮の南門乃東脇小あん徒る地候へ其所へ流らるる如何と申せは宰相の急速に一族引連と其所へ流れ其の翁嘆し小童部も早く我小随へて退候へて聲高くつゝ姿のりへりも四五人計の者人観と答るる厥后よりやせは家取つて造りて例乃や小信せりある

二善清行の翁は信し化物の画をこく約を板よある

堀川御所といふ今醍醐五條の南にありて後白河法皇の御殿なるふりての形庭石遺り家あり是もか殿舎の内とて下寺町延壽寺乃本なる金佛所油小治五條乃法皇の信しといふく殿内ふありし今金佛町と号し信所油小治五條乃南小根町といふあり文治の院判官義経とまふ宿所せし由諸書ありたり百練抄云文治元年十月十七日夜子の別討ふ六条堀川義経乃宅小軍兵四方より攻寄て夜討の企あり義経忽ち念我を襲るる勇士みみく逃散たり平家物語八坂本云土佐坊昌俊、手家入十餘路判官乃宿所六条堀川乃所所は押寄油小治なる表門をぞりくしとせり

一説に今の本園寺方丈の地堀川御所といふ屋敷に其地へ本園寺あり足利直義の下知狀曰六条法華堂屋敷ハ有ハ森の裏田を堀北ハ五條今道と堀東ハ所所の近堀堀下畧法華堂ハ今の本園寺之今道ハ松原通と堀ハ堀川ありと所所の要害小説の所なり

源頼義家

旧江油小路左女牛町の源家の苗あり初平年堀田とて入町に改む伊藤了義宗任頼誅し貞任頼生捕り上獄し忽發命して佛門に入永保二年小住生し...

長明發心集云 伊藤守源頼義の若さより罪をのこせりて神も懺愧の念ふりたり況んや...

小向して十二年の間謀るに軍を滅し奪う命ねとて度因果の天より空しく成り...

地獄の報疑いふらんらんらんふみのこの入道とて先之とせむる者なるを...

折らよけ世の多るは身罪の報りゆとて中へあんと云々成聞て忽發命し...

一筋小付け極楽と預いふらんりの眞福入る道々堂へ伊藤入道乃家の向ひ...

佐女牛西の院之眞輪堂とて迎くとありた 東齊隨筆云六條坊門の山西院...

ハ伴五入道頼義奥列の浮因と平く後建之等り十二年の間報場以謀ると信者...

の片耳取取集て件の堂乃下へ埋るより耳納堂とて入りのと堂とて入る御...

事や云々 下間家 本頼寺坊院ありて東西六條小具家多し遠祖は抄津守源頼光五代乃苗...

頭と号り馬場と縣下間と部大には内侍の祖と頼政の子取伊豆守仲細...

頼一具子肥後守宗細具子兵庫頭宗重と頼政の孫右馬助頼政の孫...

んとして御親聖人出所を通りて八宗重と云々於て既小刑せ...

桂宮

舊乃七条坊門今西院とむりは宮の門あふりとも名の忘れぬ本家のあり...

古田織部京府補

西堀院小橋渡内の子孫と織部今後の利は家に譲りて今条平乃あり...

天橋立

旧乃今の東平頼寺神堂の地より小みりて六条東極まるとは此心なり...

本宮

東九條村守智達子の田圃あり 新宮 本宮東二町許ありは所々修葺の殿内...

阿佛

六孫手通すの外敷の方 鎌倉石を實朝家 前編よりあり...

東寺神供

毎年四月初卯日稻荷例多小五社の神事東寺金堂のまへに寺住僧法...



稻荷市遷挑燈



國姓爺寓居

西六條御寺中堂前興隆寺の地へ或人曰初げ并の年預寺乃
里氏の之を勤仕し武備と諸方の名士を修練し壯年に至りて中華へ渡り大明九世
の孫唐王を取立て功名の爲の王の錦の旗を自筆の書翰と爲て配思の旗
小七里の贈は奇の西本預寺の寶庫に秘せありしと一説の後世は韓の旗
城切れての寺の中二ヶ所依れしと云ふ
清國海郡居仲著國姓爺鄭成功傳其大意小曰

夫國姓爺ハ忠精義膽の人の姓ハ鄭氏初の名ハ森字ハ大本と云ふ是を
大明泉別の大守ハはて名ハ芝龍字ハ飛黃と號け一年唐魏して漂
泊ノ身と成日本へ渡り倭婦を取つ國姓爺と爲父芝龍ハ初め
大明へ歸國し厥后日本へ金幣を貽り壯年の時國姓爺と云ふ凡
儀整秀倣儻して大志あり常々東へ向て具母と云ひ金陵の術士國
姓爺ハ相と觀て足奇男にして骨相凡そ命世乃雄才之具以福王ハ江左に
之を元弘光と改名芝龍と南安伯封じ明の大祖九代の孫唐王と違ふ
福別ハ即位しえと隆武と改じ國姓爺唐王と謂し天子乃姓朱の字と賜ふ
鄭成功と号し御堂中軍都督封し尚方の劔を賜ふ果々海外國姓と稱す是年
日本より母と違ふ大明永曆二年潼別府城を陥し同年鞏鞏合衆し同五年

數奇策を用て閩澳二十餘萬の兵卒率て鞏鞏を攻る年數度之同十年

泉別ハ於て大明合衆と違ふ延平王招討大將軍國姓爺鄭成功と號け大明永曆

十六年日本寛文臺灣ハ於て軍務の勞没と年二十九歲隆武之年より紀つる
成功の子鄭經ハの志を継ぎ父子具後大清二代康熙皇帝詔し之曰成功を
二世二十九年の同明王と補佐と

明室乃遺臣して吾亂臣賊子ハ是と故國姓爺及び長子鄭經と共々南

安縣ハ於て禮して歸葬し其田横ハ故事の如しと云田横ハ漢乃

源頼光館西六條七條の山興正寺の侯人下向氏の地ハ相傳ふ大江ハ酒呑童子ありて

勸免不意工銀と抜欺し討つる若鬼神通を得て計策をわたりて守護職の家を
命を下し一重の威を感えや當家の孫頼朝公の富士の武將の標を以て入

猪隈社ハ初西本預寺玄關門の西側下向利部卿家ありし後世傳ふ依りて
田中氏の社也と云ふ

藪内茶亭の庭中之図

- 一 古田藩の御茶亭
- 二 利休せとら
- 三 井
- 四 文覺石
- 五 文珠石
- 六 利休戸下石
- 七 東山殿御茶亭



- 八 利休御茶亭
- 九 侍合
- 十 忍良御茶亭
- 十一 後古堂
- 十二 路次口
- 十三 雪隠





月卯日
稲荷大明神
東寺
神供



高瀬川



高瀬川中は
内裏御修理に
材石運ばり
クハと角倉
子次郎の俵より
嵐の碑よ
月入り又
の内園も同名
ありしはれ代々の
勅撰小和お多く
あつたれり



羅城門

大内裏の時平城外部郭の正門にして本衛通今四行九條入彦
年十一月羅城の都小羅城と築くは羅城の名義之代實録及び拾遺
其詳羅城の外の大城と唐書高祖本紀曰築京師羅城起觀千九
又朝鮮の訓
蒙字會小曰外郭栢羅城是拔外郭の番兵羅卒くは羅城の義
少之羅城の名義論よりして本衛城德郭の門なり

小世継物語曰

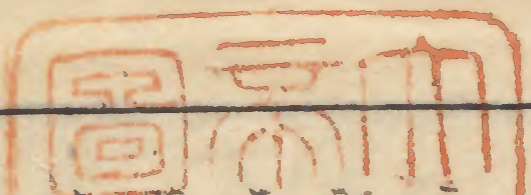
柏原の時門桓武天皇の時平の宮位を移し同長岡のまゝ時平幸しとわ

としく恒くは都と時平をふらむ門の辺を時平とて多くを
恒くは時平といふ門にたれども但しあてられぬ風をたふす
屋をたれぬ風の為を危を今おほりたりとて防りし幸
ふれはたの体はして老のたれどもははたの工をたれども
門今をたれどもははたのたれどもははたの工をたれども
て初のおく門のおみ時平とて時平をたれどもははたの工を
たれどもははたのたれどもははたの工をたれどもははたの工を
たれどもははたのたれどもははたの工をたれどもははたの工を
たれどもははたのたれどもははたの工をたれどもははたの工を

洛外惣土堤

室町殿日記追加云 天正十八年の頃豊臣六十餘別属時平四海藤原

あふら鴨に東之遙か見渡り移り平くと東ふらり移り耕他は地西のふらりあふら



遷城を泰へ押通て田島と南山の際に何とて堀をかく田舎に其郷の如く函井と云
 へたは洛の昔よりを傳へぬまて京都の堀を極に在るに云く山何と云うるを是
 まての洛中洛外の堀と末代を相定べ郡乃日記と云うるを傳へぬまて函井
 畏て釋曰と云うる極を天を延曆二年奈良の京より長岡の京へ遷りて十年あり
 當に舊洛郡宇多村と云ふる小田神相應の地と云ふるを愛宕郡小田村と云ふ
 二平は京極の人の油小洛と申すは條里と割る東の京極と云ふ鴨口あり九條と
 云ふ東の都と号す油小洛より東に近西に近と申す京の長安と云ふ洛陽と号す
 是は内裏の代を少て替へて申すは洛中洛外の堀の郡と云ふ事あり法隆院常徳
 院の時代より京極中庭と云ふは戰場と云ふは方民が止む郡都に姓を多たみ
 すとて自云洛と云ふは秀吉の御名と云ふは先洛中洛外と定へて法隆院の御名に
 東西の土塚と云ふは洛の堀一切の寺院洛中洛外に充滿て其京の並びたるは法隆院の御名に
 法隆院の御名に一町東へと出して小田村に云ふは洛を其御名に云ふ事ありと云

補遺都名所圖會平安城之卷 甲

